

○陸軍省訓令第四十三號

明治三十八年度當省所管歲入歲出科目表中へ左記ノ通増設ス

明治三十八年四月二十四日

陸軍大臣寺内正毅

△印増設

陸軍一級

款	項	目
官有物拂下代	家畜拂下代	

歳出臨時部

款	項	目
砲臺建築費	澎湖島砲臺建築費	
	△地所及建物買收費	
	△家屋其他移轉料	
清國事件費	清國事件費	△一時間金

○文部省訓令第一號

本年文部省告示第六十八號小學校教科用圖書翻刻發行規則第二十八條ニ依リ申請書ヲ提出シタルモノアルトキハ同規則第二條第三條ノ事實ニ付審査ノ上意見ヲ付シ一週間以内ニ當省へ推進スヘシ

明治三十八年四月八日

文部大臣久保田謙

道廳 府縣

○農商務省訓令第五號

蠶病豫防事務取扱規程左ノ通心得ヘシ

明治三十八年四月一日

農商務大臣野村清浦奎吾

道廳 府縣

蠶病豫防事務取扱規程

第一條 蠶病豫防事務所ニハ蠶種製造者、生絲製造者又ハ生繭ノ賣買者ハ殺菌乾繭ニ從事スル者ノ盛帳ヲ備ヘ置クヘシ  
前項盛帳ハ蠶種製造者ニ付テハ様式第一號ニ準シ其ノ他ノ者ニ付テハ様式第二號ニ準シ之ヲ作ルヘシ

第二條 蠶病豫防法施行規則第一條但書ノ場合ニ於テ蠶種検査手續ノ一部カ他ノ地方長官ノ管轄蠶病豫防事務所ニ推移シタルトキハ蠶病豫防事務所ハ其ノ検査ノ成績ヲ推移シタル蠶病豫防事務所ニ通達ナク通知スヘシ

第三條 蠶病豫防吏員ハ蠶種製造者カ蠶室器具ノ消毒ヲ施行スル場合ニ於テ一回、掃立後及上簇前ニ於テ各一回以上之カ臨檢ヲ爲スヘシ

蠶病豫防吏員ハ郷組ノ繭ヲ破出スル期節ニ於テ蠶種製造者、養蠶者、生絲製造者又ハ生繭ノ賣買者ハ殺菌乾繭ニ從事スル者ノ生繭ヲ集散又ハ保存スル場所ヲ隨時臨檢スヘシ



蠶病豫防吏員必要ト認ムルトキハ養蠶者カ蠶兒ヲ飼育スル場所ヲ臨檢スヘシ

第四條 蠶病豫防吏員カ蠶病豫防法施行規則第七條第三項ニ依リ床下掃除ヲ命シタル場合ニ於テハ塵埃ヲ清掃シ床土ヲ三寸ノ深サニ掘起シ其ノ塵埃及床土ハ之ヲ燒棄セシムヘシ但シ床土ニ蠶蛆及其ノ蛹ノ潛伏ノ虞ナシト認ムルトキハ床土ヲ掘起シ之ヲ燒棄セシムルヲ要セス

前項ノ床下掃除ハ當業者業務ノ繁忙ナラサル期節ニ於テ爲サシムヘシ

第五條 蠶病豫防吏員カ蠶病豫防法施行規則第十條第三項ニ依リ蠶病消毒證ヲ下付セムトスルニハ其ノ消毒用器具藥品及其ノ消毒方法カ蠶病豫防心得第六條ニ適合スルヤ否ヤヲ檢スヘシ其ノ適合セサル場合ニハ更ニ之ヲ行フコトヲ命スヘシ

第六條 蠶病豫防吏員カ蠶病豫防法施行規則第十六條第一號ノ檢査ヲ行フ場合ニハ蠶病豫防法第五條第六條及蠶病豫防法施行規則第二十一條ニ違背セサルヤ否ヤ竝收調書ヲ檢シ適當ト認ムルモノニ對シ蠶病豫防法施行規則第二十六條ノ種繭證明書ヲ下付シ且蠶病豫防事務所備付ノ臺帳ニ之カ記載ヲ爲スヘシ

蠶種製造豫定額ヲ檢スルニハ三升ノ種繭ニ就キ調査シ平均一升ノ顆數ヲ定メ之ヲ種繭ノ總枳量ニ乘シテ種繭ノ總顆數トナシ次ニ種繭ノ内若干顆ヲ切開シテ其ノ發蛾歩合ヲ檢シ之ヲ種繭總顆數ニ乘シ其ノ半數ヲ以テ産卵シ得ヘキ蛾數ノ標準ト爲スヘシ

第七條 蠶病豫防吏員カ蠶病豫防法施行規則第二十七條ニ依リ原種用ノ印又ハ製絲用種檢査合格ノ證印ヲ押捺スル場合ニ於テハ臺紙ノ數種繭證明書及收調書ヲ對照シ原種ニ在リテハ蠶病豫防法施行規則第十四條第一項及同第十五條ニ違背セサルヤ否ヤヲ檢シ製絲用種ニ在リテハ蠶病豫防法施行規則第十四條第一項ニ違背セサルヤ否ヤヲ檢スヘシ

第八條 蠶病豫防吏員カ蠶病豫防法施行規則第十六條第二號又ハ第三號ニ依ル不越年蠶種ノ檢査ヲ行フ場合ニ於テハ原種ニ在リテハ卵ノ出殼繭ノ種繭證明書及收調書ヲ對照シ製絲用種ニ在リ

テハ出殼繭ノ種繭證明書及收調書ヲ對照シ適當ト認ムル原種ニ付テハ更ニ第十四條ノ方法ニ依リ母蛾檢査ヲ行フヘシ

前項ノ檢査ヲ終リタルトキハ原種ニ在リテハ蠶病豫防法施行規則第二十四條ノ處理ヲ、製絲用種ニ在リテハ同第二十八條ノ處理ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テ蠶病豫防吏員カ蠶種製造上不良ノ行爲アルカ又ハ病毒存在ノ疑アリト認ムル時ハ檢査ヲ中止シ蠶病豫防法第十六條ニ依リ必要ナル處分ヲ爲シ直チニ其ノ事由ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第九條 前條第三項ノ場合ニ於テ地方長官卵ノ檢査ヲ必要ナリト認ムルトキハ蠶病豫防吏員ニ蠶病豫防法施行規則第十八條第二項ノ檢査ヲ行フコトヲ命スヘシ

前項檢査ヲ行ヒタル場合ニ於テハ直チニ其ノ檢査成績ヲ報告セシムヘシ

第十條 蠶病豫防吏員カ蠶病豫防法施行規則第十六條第二號ニ依リ越年蠶種ノ檢査ヲ行フ場合ニ於テハ卵ノ出殼繭ノ種繭證明書及收調書ヲ對照シ適當ナリト認ムルトキハ原種ニ在リテハ原種用ノ印ヲ、製絲用種ニ在リテハ製絲用種檢査合格ノ證印ヲ押捺スヘシ

越年蠶種ノ檢査ヲ終リタルトキハ蠶病豫防法施行規則第二十條又ハ第二十一條ノ處理ヲ爲スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ製絲用種中病毒存在ノ疑アリト認ムル場合ニハ第八條第三項ニ準スヘシ

第十一條 前條第三項ノ場合ニ於テ地方長官卵ノ檢査ヲ必要ナリト認ムルトキハ更ニ蠶病豫防法施行規則第十七條但書ノ檢査ヲ行フコトヲ命スヘシ

第十二條 蠶病豫防吏員カ第八條第九條又ハ第十條ノ出殼繭ヲ檢査スルニ當リテハ蠶病豫防法第五條第六條ニ違背セサルヤ否ヤヲ檢シ三升ノ出殼繭ニ就キ調査シ平均一升ノ發蛾顆數ヲ檢シ之ヲ出殼繭ノ總枳量ニ乘シ其ノ半數ヲ以テ産卵シタル蛾數ノ標準ト爲スヘシ







第六條 花庭検査所長ハ其ノ主管事務ニ付各官廳其ノ他外部ニ對シ照會往復スルコトヲ得  
 第七條 花庭ノ事業ニ關シ旅費ヲ支辨シ所員ノ出張巡回ヲ申出ル者アルトキハ所長ニ於テ許否シ  
 所長出張巡回ヲ要スル場合ニ於テハ日數十日以内ナルトキハ其ノ旨農商務大臣ニ報告シ十日ヲ  
 超ユルトキハ認可ヲ請フヘシ  
 第八條 花庭検査所長ハ所務ノ爲所員ノ出張巡回ヲ命スルコトヲ得但シ所長出張巡回ヲ要スル場  
 合ニ於テハ其ノ旨農商務大臣ニ報告スヘシ  
 第九條 花庭検査所長ハ毎年一回事務ノ成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ臨時必要ト認ムルモ  
 ノハ其ノ都度報告スヘシ  
 第十條 農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スル事項ハ總テ商工局長ヲ經由スヘシ  
 ○農商務省訓令第七號  
 明治三十二年農商務省訓令第二十六號ハ之ヲ廢止ス  
 明治三十八年四月八日  
 農商務大臣男爵清浦奎吾  
 省中一般 大林區署

〔參照〕  
 明治三十二年五月十日 農商務省訓令第二十六號 大林野下底審査委員規則ナリ  
 ○農商務省訓令第八號  
 明治三十二年農商務省訓令第二十二號國有林野處分調査規程中左ノ通改正ス  
 明治三十八年四月十四日  
 農商務大臣男爵清浦奎吾  
 第一條ノ二ヲ左ノ如ク改ム  
 存廢區別調査員ハ第一條第一號及第二號ニ規定スル事項ノ調査ヲ爲シ處分調査員ハ同條第三號  
 及第四號ニ規定スル事項ノ調査ヲ爲スモノトス

存廢區別調査員ハ高等官又ハ特ニ選拔シタル判任官ヲ以テ之ニ充テ處分調査員ハ判任官ヲ以テ  
 之ニ充ツヘシ但シ必要アルトキハ雇員ヲ附屬セシムルコトヲ得  
 第六條ヲ左ノ如ク改ム  
 處分調査員ハ調査ノ指定ヲ受ケタル林野ニ對シ土地ノ貸付產物ノ賣拂及無料採收部分林、豫  
 約賣拂其ノ他林野ニ附帶スル義務ノ有無ヲ調査シ其ノ調査ヲ携帶スヘシ  
 第六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ  
 第六條ノ二 處分調査員調査ノ指定ヲ受ケタル林野所在ノ町村内ニ於テ指定林野以外ニ不要存置  
 ト認メ得ヘキ林野(存廢區別調査ノ際股ノ發見シタルトキハ其ノ調査ヲ遂ケ調査書進達ノ際其  
 ノ旨ヲ大林區署長ニ具申スヘシ)  
 第十條ヲ左ノ如ク改ム  
 處分調査員調査上必要アリト認ムルトキハ小林區署職員ノ立會ヲ求メ之ヲ施行スヘシ  
 第十二條第二項ヲ左ノ如ク改メ但書ヲ削除ス  
 處分調査員ハ山林局長ノ定ムル様式ニ從ヒ不要存置林野調査書(以下略シテ單ニ)及實測圖又ハ  
 見取圖ヲ調製シテ大林區署長ニ差出スヘシ  
 第十二條第二項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ  
 前項調査書及實測圖又ハ見取圖ノ進達期限ハ大林區署長之ヲ定ムヘシ  
 第二十五條第二項但書第二號ニ依リ實測ヲ省略シタル場合ニ於テハ公圖ノ寫ヲ以テ實測圖ニ代  
 用シ第三號ニ依リ又ハ見込面積三町歩以下ニシテ實測ヲ省略シタル場合ニ於テハ見取圖ヲ調製  
 スヘシ  
 第十五條中「調査書ニハ」ノ下ニ「測量及產物調査ノ方法ヲ」ヲ加ヘ「其ノ欄外ニ」ノ下ニ「ハ」ヲ加フ  
 第十六條ヲ左ノ如ク改ム



實測圖ハ面積ヲ算定スルニ足ルヘキ程度ニ於テ適宜ノ縮尺ヲ用ヒ一箇所毎ニ各別ニ之ヲ作ル

實測圖及見取圖ニハ方位及調査書番號ヲ記載スヘシ

實測圖及見取圖ハ調査書ノ第三頁ニ貼附シ又ハ次葉ニ編綴スヘシ

第二十五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項以外ノ林野ニ在リテハ携帶圖板ヲ使用シ距離ハ細測又ハ步測ニ依ルヘシ但シ見込面積三町歩以下ノモノニ在リテハ實測ヲ省略シ見込面積三町歩以上十町歩以下ノモノニ在リテハ左ノ方法ニ依ルコトヲ得

一 三斜法發心法其ノ他簡易ノ測量法ニ依ルコト

二 改租圖地押調査圖社寺境内外區別圖又ハ其ノ他ノ公圖ニシテ實地ト大差ナシト認め得ルモノハ實測ヲ省略スルコト

三 臺帳面積ニシテ實地ト大差ナシト認め得ルモノハ實測ヲ省略スルコト

第二十六條ヲ削除ス

第二十九條中「實測圖」ヲ「下ニ又ハ第十二條第四項ニ依リ實測圖ニ代用シタル公圖」ノ寫ヲ加ヘ左ノ但書ヲ加フ

但見取圖ヲ調製シタルモノニ付テハ其ノ見込面積ニ依ルヘシ

第二十九條第二項ヲ削除ス

第三十三條ニ左ノ但書ヲ加フ

但部分林ノ主産物ハ造林者ヲシテ調査ヲ爲サシメ處分調査員之ヲ監査シ正確ナリト認めルトキハ其ノ調査ヲ省略スルコトヲ得

第三十六條及第三十七條ヲ削除ス

第四十條ニ左ノ如ク改ム

林野ノ土地ノ價格ハ其ノ地方ニ於ケル既往ノ賣拂代價及民間ノ賣買代價ヲ調査シ地質地形交通ノ便否希望ノ厚薄等ヲ參酌シテ之ヲ定ムヘシ

第四十二條ヲ左ノ如ク改ム

主産物ノ價格ハ其ノ地方ニ於ケル既往ノ賣拂代價及時價ヲ調査シ木質ノ良否運搬ノ便否希望ノ厚薄等ヲ參酌シテ之ヲ定ムヘシ

第四十七條ヲ左ノ如ク改ム

處分調査員ハ森林手簿記載例ニ基キ日々左ノ事項ヲ森林手簿ニ記載スヘシ

一 執務ノ種類

二 調査シタル林野ノ字名及調査ノ要領

三 監督ヲ受ケタルトキハ其ノ要領

四 其ノ他必要ト認めル事項

第四十九條中「毎月一回」トアルヲ「毎翌月五日限り」ニ改ム

第五十條中「毎年三月及九月」トアルヲ「毎年三月、六月、九月及十二月」ニ改メ「總組」ノ三字ヲ削ル

第五十一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

大林區署長ハ林務官又ハ山林局監督官補ヲ以テ處分調査監督員ト爲シ隨時處分調査ノ監督ヲ行ハシムヘシ但シ林務官補又ハ山林局書記ヲ以テ處分調査監督員心得ト爲シ監督ヲ行ハシムルコトヲ得

第五十七條ニ第二項トシテ左ノ一項ヲ加ヘ第三項ヲ第三項ニ改ム

前項ノ野帳ハ處分調査書ニ添附スヘシ

第五十八條ヲ削除ス



○農商務省訓令第九號

道廳 府縣

共同苗代ノ設置ハ苗代ノ管理ヲ容易ニシ稻ノ種類ノ統一ヲ促シ害蟲驅除ノ便利ヲ助クル等稻作ノ改良發達上ニ至大ノ功益アルモノト認ム依テ田地ノ作人ヲ督勵シテ普ク之ヲ實行セシムル爲令達ヲ發シ又ハ其ノ他ノ適當ナル手段ヲ盡シ遺算ナキヲ期スヘシ

○農商務省訓令第十號

農商務大臣男爵清浦奎吾

明治三十八年四月十五日

警視廳 道廳 府縣 東京府

○農商務省訓令第九號検査員執務規程中左ノ通改正ス

明治三十八年四月十五日

農商務大臣男爵清浦奎吾

第十四條ニ左ノ一項ヲ加フ

結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ臨床上ノ症狀及「ツベルクリン」ノ注射ニ因ル増温ハ精密ニ之ヲ記録シ検査終了ノ後地方長官ニ報告スヘシ

第十六條ヲ左ノ通改ム

第十六條 畜牛ノ鎖鑰ヲ命ストキハ左ノ事項ヲ指示スヘシ

一 別棟ノ畜舎ニ輕症結核病ニ罹リタル畜牛ノミヲ繋留スル場合ニ於テハ他ノ畜牛ト接近セシメサルコト

一 同一畜舎内ニ輕症結核病ニ罹リタル畜牛ト其ノ他ノ畜牛トヲ繋留スル場合ニ於テハ地盤ヨリ天井又ハ地盤ヨリ九尺ノ高サニ至ル迄土壁、木壁其ノ他堅牢ナル隔壁ヲ以テ畜内ヲ分割シ出入口及排泄溝ヲ異ニシ輕症結核病ニ罹リタル畜牛ト他ノ畜牛トヲ各別ニ繋留セシムルコト

一 輕症結核病ニ罹リタル畜牛ハ他ノ畜牛ト交通ヲ絶タシムルコト但シ交尾ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一本條第一號及第二號ノ場合ニ於テ畜舎ニ附屬スル運動場アルトキハ輕症結核病ニ罹リタル畜

牛及其ノ他ノ畜牛ニ付各別ニ運動場ノ區域ヲ指示スルコト

一 輕症結核病ニ罹リタル畜牛ハ指定シタル畜舎若ハ運動場以外ニ出サシメサルコト但シ検査員ニ於テ場所及方法ヲ指示シテ放牧若ハ使役ヲ認許シ又ハ相當ノ間隔ヲ置キ結核病ノ疑アル畜牛ヲ同一畜舎ニ繋留セシムルコトヲ得

○遞信省訓令第一號

海事局 海務署

明治三十三年<sup>十二</sup>遞信省訓令第四號船舶検査手續中左ノ通改正シ明治三十八年<sup>三</sup>遞信省令第十九號發動機船検査規程施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年四月一日

遞信大臣大浦兼武

第一號書式中機關部件名書ノ次ニ左ノ書式ヲ加フ

發動機船		丸機關部件名書		特別検査第	同
船舶検査證書番號第		號		検査主任	同
検査地名	所 有 者	航路定限		航路	
種類及ロ數	種 類 及 ロ 數	特別検査期間		從明治 年 月 日	
平均回轉數	平均回轉數	至明治 年 月 日		臨檢度數	
				同	











備考 此ノ手續ニ依リ特別検査報告書ヲ差出シタル船舶ノ次回以後ノ特別検査ニ於テハ發  
動機ノ件名中前同特別検査以後變更ヲ生ゼサルモノハ摘要ノ外其ノ記入ヲ省略スルモ妨  
ナシ

(電氣)

臨檢度數

發動機船		九機關部件名書		特別検査第		定期検査第		同	
船檢證書番號第	號	檢査地名	檢査主任	種類及ヒ數	馬力	平均同轉數	最大電壓	勵磁法	種類及ヒ數
所有者	航路	特別検査期間	從明治 年 月 日	至明治 年 月 日	池電蓄	核電容量	年 月 日	明治 年 月 日	同
航路定限	航路	航行期間	從明治 年 月 日	至明治 年 月 日	機動	機關長免狀	第 號	度	同
製造者	製造地	製造年月	及ヒ氏名	種類番號	機關長免狀	第 號	度	同	同

電氣發動機		名 稱		寸法(吋)其ノ他		備 考	
速度調整器ノ種類	開閉器及ヒ反轉方法	螺絲材料	軸徑	軸黃銅卷上ノ徑	支面金ノ間隙	螺絲種類	螺絲徑距
名 稱	寸法(吋)其ノ他	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考
電線	名 稱	寸法(吋)其ノ他	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考
電線布設並ニ接続方法	名 稱	寸法(吋)其ノ他	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考
絕緣物種類	名 稱	寸法(吋)其ノ他	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考
器具	名 稱	寸法(吋)其ノ他	備 考	備 考	備 考	備 考	備 考















明治三十八年五月二日

大藏大臣男爵曾禰荒助

第一條 稅務署ハ六月一日以前ト雖便宜ノ方法ヲ以テ販賣ノ目的ヲ以テ鹽ヲ所有又ハ所持スル者ヲ調査シ置キ其ノ鹽ノ所在ニ注意シ鹽稅徵收上遺漏ナキヲ期スヘシ

第二條 鹽ノ數量ハ全部ノ重量ヲ秤量シテ之ヲ査定ス但シ包裝シタル鹽ニシテ各包裝ノ數量略同一ナリト認メラルルモノニ付テハ包裝百箇ニ付五箇ノ割合ヲ以テ適宜包裝ヲ抽出シテ秤量シ其ノ數量ヨリ風袋量ヲ控除シタルモノヲ包裝數ニテ除シ之ヲ全包裝數ニ乘シテ鹽ノ數量ヲ査定スルコトヲ得

同一貯藏場ニ藏置スル鹽包裝數千箇以上ナルトキハ前項但書ニ依リ抽出スヘキ包裝數ハ五十箇トス

第三條 稅務署ハ鹽稅ヲ課スヘキ鹽ノ數量ヲ査定シタルトキハ査定月日及其ノ數量ヲ第一號書式ノ鹽稅臺帳ニ記入シ同時ニ第二號書式ニ依リ鹽査定數量ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

前項ノ鹽査定通知書ニハ鹽稅ヲ分納セムトスル者ハ通知後五日以内ニ査定數量ノ區分ヲ申告スヘキ旨ヲ附記スヘシ

第四條 納稅者査定數量ノ區分ヲ申告シタルトキハ稅務署ハ其ノ區分額ヲ鹽稅臺帳ニ記入スヘシ

第五條 前條ニ依リ査定數量ノ區分ヲ申告シタルモノハ其ノ區分額ニ依リ其ノ區分ヲ申告セサルモノハ査定數量ニ依リ納稅告知書ヲ調製シテ之ヲ納稅者ニ交付シ其ノ稅額及調定月日ヲ鹽稅臺帳ニ記入スヘシ

第六條 鹽稅ノ延納ヲ申請スル者アルトキハ稅務署ハ供託受領證ト共ニ第三號書式ノ鹽稅擔保提供書ヲ提出セシムヘシ

鹽稅ノ延納ヲ許可シタルトキハ稅務署ハ擔保提供月日、延納稅額、延納期限、擔保物ノ種類、金額又ハ價額、供託金庫名、供託受領證番號及供託月日ヲ第四號書式ノ鹽稅延納擔保物臺帳ニ記入シ延

納期限ヲ鹽稅臺帳ニ記入スヘシ

第七條 納稅者鹽稅ヲ納付シタルトキハ稅務署ハ納付月日ヲ鹽稅臺帳ニ記入シ其ノ延納ニ係ルモノハ納稅額ニ相當スル擔保解除ノ手續ヲ爲シ其ノ月日ヲ鹽稅延納擔保物臺帳ニ記入スヘシ

第八條 稅務署ハ六月三十日迄ハ五日毎ニ七月一日ヨリハ十日毎ニ第五號書式ニ依リ鹽稅徵收狀況ヲ稅務監督局及所轄鹽稅務局出張所ニ通知スヘシ

第九條 稅務監督局ハ六月三十日迄ハ十日毎ニ七月一日ヨリハ一箇月毎ニ第六號書式ニ依リ鹽稅徵收狀況ヲ大藏省ニ報告スヘシ

第十條 販賣ノ目的ニ非サルノ故ヲ以テ課稅セサリシ鹽ヲ多量ニ所有又ハ所持スル者ニ對シテハ鹽專賣法違反ノ所爲ナキ豫常ニ相當ノ監視ヲ爲スヘシ

第一號書式 鹽稅臺帳

査定月日	鹽査定數量	稅額	調定月日	延納期限	納稅月日	摘要	納稅者	
							住所	氏名

(備考)

一 納稅者査定區分ヲ申告セサルトキハ鹽査定區分額欄ニ斜線ヲ引クヘシ

二 延納ヲ許可セルトキハ其ノ月日ヲ摘要欄ニ記入スヘシ







第六號書式

自何月何日 鹽稅徵收狀況報告書

至何月何日	區別	査定人員	査定數量	調定額	納稅人員	鹽數量	納稅額	摘要
	第一種							
	第二種							
	第三種							
	第四種							
	合計							
	累計							

右報告候也  
年 月 日

大藏大臣宛

何稅務監督局長

(備考)

區別欄ノ種類別ハ左ノ別ニ依リ記入スヘシ

第一種 延納及分納ヲ爲ササルモノ

第二種 六月三十日迄ニ分納セルモノ

第三種 延納ヲ爲シテ分納ヲ爲ササルモノ

第四種 延納ヲ爲シテ分納ヲ爲セルモノ

○大藏省訓令第四十一號

稅務監督局 稅務署

明治三十八年勅令第五百十七號ニ依リ醬油釀造ニ使用スル鹽ノ使用證明ニ關シ稅務署事務取扱方  
左ノ通心得ヘシ

明治三十八年五月九日

大藏大臣男爵曾禰充助

第一條 醬油釀造ニ使用スル爲特別定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル鹽ノ使用承認ヲ申請セムトスル者  
アルトキハ第一號甲書式ニ依リ買受年月日、數量、賣渡鹽務局名及使用ノ年月日、數量、場所ヲ記  
載シタル鹽使用承認申請書ヲ提出セシムヘシ

前項ノ申請アリタル場合ニ於テ稅務署ハ醬油製造検査簿又ハ鹽務局ヨリ發シタル鹽賣渡通知書  
等ニ照査シ不都合ナシト認メタルトキハ使用ノ承認ヲ與ヘ其ノ使用ニ付相當ノ監視ヲ施シ使用  
ノ事實ヲ確認スヘシ

第二條 前條ノ醬油釀造者鹽使用證明書ノ交付ヲ申請セムトスルトキハ第一號甲書式ノ申請書  
ヲ提出セシメ同號乙書式ノ證明書ヲ交付スヘシ

第三條 醬油釀造ニ使用スル爲特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者其ノ未使用鹽ニ付承認ヲ申  
請スルトキハ第二號甲書式ニ依リ買受年月日、數量、賣渡鹽務局名及使用ノ年月日、數量、場所、未  
使用鹽ノ數量及事由ヲ記載シタル未使用鹽承認申請書ヲ提出セシメ鹽務局ヨリ發シタル鹽賣渡  
通知書及鹽使用證明申請書ニ照査シ其ノ未使用鹽ヲ検査シ同號乙書式ノ未使用鹽證明書ヲ交  
付スヘシ

第四條 第一條ノ證明ヲ受ケタル者ノ溜醬油ヲ査定シタルトキハ其ノ査定ト同時ニ殘存味噌ノ數  
量ヲ査定シ第三號書式ニ依リ醬油及味噌ノ査定數量、査定年月日ヲ記入シタル査定通知書ヲ賣  
渡鹽務局ニ送付スヘシ殘存味噌ナキトキハ査定通知書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ



第五條 一般定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ以テ醬油製造ニ使用シ其ノ使用證明ヲ申請セムトスル者アルトキハ第四號甲書式ニ依リ使用ノ年月日數量及場所ヲ記載シタル使用證明申請書ヲ提出セシメ其ノ使用ヲ確認シ同號乙書式ノ使用證明書ヲ交付スヘシ

第六條 前條ノ證明ヲ受ケタル者ニシテ溜醬油ノ査定ヲ申出テタルトキハ其ノ數量ヲ査定シ第五號書式ニ依リ生引溜ナルト否トノ區別及査定數量、査定年月日ヲ記入シタル査定證明書ヲ交付スヘシ

第七條 稅務署ハ第六號書式ノ鹽使用高帳簿ヲ設備シ醬油製造人別ニ整理シテ一箇年醬油製造見込高及鹽使用見込高ヲ記載シ鹽賣渡通知高、鹽使用承認高、未使用鹽承認高、醬油及味噌ノ査定高ノ記入ヲ爲スヘシ

第八條 稅務署ハ第七號書式ニ依リ毎月末日鹽使用通知書ヲ作成シ之ヲ賣渡鹽務局ニ送付スヘシ

第九條 稅務署ハ第八號書式ニ依リ毎月末日鹽使用高報告表ヲ作成シ之ヲ稅務監督局ニ提出シ稅務監督局ハ同號書式ニ依リ翌月二十日迄ニ之ヲ大藏省ニ提出スヘシ

稅務署ハ毎年未ニ於テ番醬油及自家用醬油ノ製造ニ使用セル鹽ノ數量ヲ調査シテ第九號報告表ヲ作成シ前項報告表ニ添付スヘシ

第一號書式 (輪廓乙種六寸横四寸五分)

(甲) 鹽使用承認申請書(鹽使用濟證明申請書)

申請人 何府縣何都市何町村何番地 何 某

住所氏名 醬油製造人

申請	購買受年月日及數量	明治何年何月何日何斤
事項	賣渡鹽務局名	何鹽務局
本項	鹽使用年月日及數量	明治何年何月何日何斤
申請	鹽使用場所	何都市何町村何番地
年月日請	明治何年何月何日	
署長	調查	證明年月日 明治何年何月何日

(乙) 鹽使用濟證明書

申請人住所氏名	醬油製造人	何府縣何都市何町村何番地 何 某
申請事項	購買受年月日及數量	明治何年何月何日何斤
	賣渡鹽務局名	何鹽務局
	鹽使用年月日及數量	明治何年何月何日何斤
	鹽使用場所	何都市何町村何番地
申請年月日請	明治何年何月何日	
右證明ス		何 稅務署 印



第二號書式 (輪廓甲 縱六寸 橫四寸五分)

未使用鹽承認申請書

申請人 住所氏名	鹽油製造人 何府縣何郡市何町村何番地 何 某
申請 事項	鹽買受年月日及數量 鹽渡鹽務局名 鹽使用年月日及數量 鹽使用場所 未使用鹽數量 同 事由 何々(仕込高減少ノ爲使用殘)
申請 年月日	明治何年何月何日
署 長	調查 證明年月日 明治何年何月何日

(乙)

未使用鹽證明書

申請人 住所氏名	鹽油製造人 何府縣何郡市何町村何番地 何 某
申請 事項	鹽買受年月日及數量 鹽渡鹽務局名 鹽使用年月日及數量 何々(仕込高減少ノ爲使用殘)
申請 年月日	明治何年何月何日
署 長	證明年月日 明治何年何月何日

第三號書式 (輪廓乙 縱六寸 橫四寸五分)

溜醬油査定通知書

事項	鹽油製造 人住所氏名 何府縣何郡市何町村何番地 何 某
査定 事項	生引溜査定數量 味増査定數量 何石 何斤(無)
査定 年月日	明治何年何月何日
右通知候也	明治何年何月何日

備考 査定事項ニハ生引溜、味増引溜、ニラ溜ノ査定高ヲ區分記入スヘシ

何稅務署 印

事項	鹽油製造 人住所氏名 何府縣何郡市何町村何番地 何 某
申請 年月日	明治何年何月何日
右證明ス	明治何年何月何日

何稅務署 印











明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十一號

第八號書式 (輪廓六寸横九寸)

何年何月分  
高報告表

查定高		製造場數	製造人員	醬油製造見込高	鹽使用見込高	備考
鹽油	味噌					
何石	何斤	何程	何程	何石	何程	

何稅務署長官氏名圖

明治  
鹽使用

郡市名	貸渡通知高		使用済承認高	未使用承認高
	何鹽務局	何斤	何斤	何斤
何郡	何鹽務局出張所	何斤		

明治何年何月何日

備考 製造場數製造人員醬油製造見込高及鹽使用見込高ハ一月分及七月分ノ外  
記入ヲ要セス

明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十一號

一四九

一四八



明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十二號

第九號書式 (輪廓縦六寸横九寸)

分年何月何日  
自家用醬油使用高報告表

油	自家用醬油				備考
	鹽使用高	製造場數	製造人員	醬油製造高	
何程	何程	何程	何石	何程	

何月何日 何稅務署長官氏名印

自家及醬油番

郡市名	番		
	製造場數	製造人員	醬油製造高
何郡	何程	何程	何石

明治何年

○大藏省訓令第四十二號

明治三十八年勅令第五百十七號ニ依ル鹽及鹽藏物ノ輸出並交付金下付ニ關シ稅關事務取扱方左ノ通心得ヘシ

明治三十八年五月九日

大藏大臣男爵曾禰荒助

稅關

第一條 特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者鹽ノ輸出申告書ヲ提出シタルトキハ鹽務局ヨリ發シタル鹽賣渡通知書ニ照査シ現品ヲ檢査シテ其ノ數量ヲ檢定スヘシ  
第二條 前條ノ檢定ハ鹽ノ重量ヲ秤量シテ之ヲ定ムヘシ但シ同一包裝ニシテ同一數量ト認メラル

明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十二號



ル鹽ニ在リテハ百ニ付五ノ割合(百ニ付五ノ割合カ總數五十以上ニ上ルトキハ五十トス)ヲ以テ適宜包裝ヲ摘出シ其ノ數量ヨリ風袋量ヲ控除シ包裝數ニテ除シ之ヲ總包裝數ニ乘シテ鹽ノ數量ヲ定ムルコトヲ得

第三條 特別定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル鹽ノ輸出ヲ爲シタル者アルトキハ毎月末日第一號書式ニ依リ輸出年月日、輸出數量、輸出先及輸出者ノ氏名ヲ記入シタル輸出通知書ヲ賣渡鹽務局ニ送付スヘシ

第四條 一般定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者鹽ノ輸出申告書ヲ提出シタルトキハ現品ヲ検査シ

第二條ニ依リ其ノ數量ヲ檢定スヘシ

第五條 鹽藏シタル鰈又ハ鰯ノ輸出申告書ヲ提出シタルトキハ現品ヲ検査シ第二條ニ準シ鹽藏魚類ノ重量ヲ檢定スヘシ

第六條 鹽又ハ鹽藏魚類ノ輸出ヲ爲シタル者交付金ノ下付ヲ請求セムトスルトキハ第二號書式ニ依リ鹽又ハ鹽藏魚類ノ數量、輸出先、積載船舶名、寄港地及輸出年月日ヲ記入シタル交付金下付請求書ヲ提出セシメ輸出申告書及明治二十八年勅令第五百五十七號第二十條ニ依リ提出スヘキ添付書類ヲ調査シ交付金下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 税關ハ第二號書式ノ鹽及鹽藏魚類輸出整理簿ヲ設備シ鹽賣渡通知書、鹽及鹽藏魚類輸出申告書、交付金下付請求書等ニ依リ必要ノ事項ヲ記入スヘシ

第八條 税關ハ毎月第四號書式ニ依リ鹽及鹽藏魚類輸出報告表ヲ調製シ翌月二十日マテニ大藏省ニ報告スヘシ

第一號書式 (輸原縦六寸横五寸)

特別定價鹽輸出通知書

輸出年月日	輸出數量	輸出先地名	輸出者住所氏名
明治何年何月何日	何斤	何々	何府縣何郡市何町村 何某
明治何年何月何日	何斤	何々	何府縣何郡市何町村 何某
明治何年何月何日		何鹽務局(何出張所)宛	何 税 關 印

第二號書式

輸出鹽(輸出鹽藏魚類)交付金下付請求書

一鹽(鹽水漬鰈又ハ鹽水漬鰯)何斤

輸出先 何々

船舶名 何々

寄港地 何々

輸出年月日 明治何年何月何日

右交付金何程御下付相成度別紙證明書類相添此段相願候也

明治何年何月何日 何府縣何郡市何町村何番地

税關長宛 何 某 印



明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十二號

第三號書式 (鹽及鹽藏魚類輸出整理簿)

告		交付金請求		備 考
積載船名	寄港地	年月日	金額	
何々	何々	明治何年何月何日	何程	
何々	何々	明治何年何月何日	何程	

明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十二號

住所氏名	鹽務局通知		輸 出 申			
	賣渡年月日	賣渡數量	輸出年月日	輸出物種類	輸出物數量	輸出先
何郡市何町村 何 某	明治何年何月何日	何 斤	明治何年何月何日	何 何	何 斤	何々
何郡市何町村 何 某			明治何年何月何日	何 何	何 斤	何々



第四號書式 (輪廓六寸横九寸)

鹽及鹽藏魚類輸出報告表

區分	本月分	累計	備考
鹽務局通知	斤	斤	
何鹽務局			
何鹽務局何出張所			
輸出申告			
鹽			
鹽水漬鱈			
鹽水漬鯨			
鹽漬鯨			
交付金請求			
鹽			
鹽水漬鱈			
鹽水漬鯨			
鹽漬鯨			

明治何年何月何日 何税 關長氏名 印

備考  
 一 本表交付金額ニ在リテハ其ノ金額ヲ備考欄ニ記入スヘシ  
 二 本表累計ハ四月ヨリ翌年三月ニ至ル分ヲ累計上スヘシ

○大藏省訓令第四十三號

鹽務局事務取扱手續左ノ通相定メ明治三十八年六月一日ヨリ施行ス

明治三十八年五月九日

大藏大臣男爵曾禰荒助

鹽務局

鹽務局事務取扱手續

第一章 總則

第一條 本則中鹽務局ニ關スル規定ハ鹽務局出張所ニ鹽務局長ニ關スル規定ハ鹽務局出張所長ニ準用ス

第二條 願届書ニシテ本則中書式ヲ定メタルモノニ付テハ鹽務局ハ其ノ用紙ヲ備置キ出願人又ハ届出人ノ請求アルトキハ之ヲ交付スヘシ

第二章 製造

第三條 鹽ノ製造許可ヲ出願セムトスル者アルトキハ第一號書式ニ依リ鹽製造許可願書ヲ提出セシメ第二號書式ニ依リ許可ノ指令ヲ爲スヘシ

第四條 前條ノ外鹽製造ニ關スル願届書ハ第三號書式ニ依リ提出セシメ指令ヲ要スヘキモノハ第二號書式ニ依リ指令ヲ爲スヘシ

第五條 製造人ノ自家用ニ供スル鹽ニ付テハ鹽務官吏ハ検査ノ際其ノ數量ヲ手帳ニ記載シ置クヘシ

第六條 鹽專賣法施行細則第二十六條ニ依リ再製鹽ノ申告ヲ爲ストキハ第四號書式ニ依ラシムヘシ

第三章 收納及雜受

第七條 鹽ヲ納付セムトスル者アルトキハ製造人ノ氏名ヲ鹽製造許可臺帳ニ照査シ現品ヲ適宜ノ場所ニ置カシメ納付人ヲシテ製造人ノ氏名 製造場所 製造年月日 包裝數及鹽數量ヲ申述セシメ



第五號書式ノ納付書ニ納付年月日ト共ニ之ヲ記入シ納付人ニハ番號札ヲ交付シ現品ニハ納付書ノ番號ト同一番號ノ票札ヲ付スヘシ

第八條 現品ニ票札ヲ付シタルトキハ適宜鹽ヲ採リ其ノ品質ヲ鑑定シ其ノ等級ヲ納付書ニ記入シ納付人ニ示シテ異議ノ有無ヲ質スヘシ

第九條 納付人前條ノ鑑定ニ異議ナキ場合ニ於テ其ノ品質五等以上ナルトキハ鹽ノ秤量ヲ爲シ其ノ數量ヲ納付書ニ記入シ現品ハ納付人ヲシテ之ヲ倉庫又ハ鹽務局ノ指定スル場所ニ運搬セシムヘシ

鹽ノ秤量ハ全部ノ重量ヲ秤量シテ之ヲ定ム但シ包裝シタル鹽ニシテ各包裝ノ數量略同一ナリト認メラルルモノニ付テハ包裝百ニ付五ノ割合(百ニ付五ノ割合カ總數五十以上ニ上ルトキハ五十トス)ヲ以テ適宜包裝ヲ摘出シ其ノ數量中ヨリ風袋量ヲ控除シタルモノヲ包裝數ニテ除シ之ヲ全包裝數ニ乘シテ鹽ノ數量ヲ定ムルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ其ノ摘出シタル包裝ニ第七條ニ依リ現品ニ付シタル票札ノ附屬札ヲ付スヘシ

第二項但書ノ場合ニ於テ秤量終了シタルトキハ納付人ヲシテ解裝シタル鹽ヲ包裝セシムヘシ

納付人鑑定ニ異議アル場合ニ於テハ納付書欄外ニ其ノ旨ヲ記入シテ前條ノ手續ヲ爲シ直ニ再鑑定ヲ爲スヘシ

第十條 前條ノ手續ヲ終リタルトキハ賠償金額ヲ算出シ之ヲ納付書ニ記入シ賠償金仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ニ依リ賠償金ヲ仕拂フトキハ納付人ヲシテ納付書ニ賠償金額收印ヲ押捺セシメ番號札ト引換ニ仕拂命令書又ハ現金ヲ交付スヘシ

第十一條 鑑定ノ結果鹽專賣法第十六條ニ依リ相當處理ヲ爲スコトヲ命シタルトキハ納付書欄外

ニ其ノ旨ヲ記入シ現品ハ納付人ヲシテ之ヲ引取ラシムヘシ

第十二條 鹽專賣法第二十四條ニ依リ收納スルトキハ本章ノ規定ニ準シ手續ヲ爲スヘシ但シ鹽納付書ノ下ニ「法第二十四條收納」ノ八字ヲ記入スルヲ要ス

第十三條 鹽ノ沒收、不用標本受入等ノ雜受ヲ爲ストキハ第八號書式ノ受入票ヲ作成シ番號、受入ノ事由、包裝數、等級、數量及見積賠償金額ヲ記入シ受入ノ手續ヲ爲スヘシ

前項受入票ニハ鹽專賣法第二十五條沒收、同第二十七條沒收、不用標本受入、其ノ他雜受ノ區分ヲ摘要欄ニ記入シ外國鹽又ハ臺灣鹽ニ係ルトキハ其ノ區別ヲモ記入スヘシ

第十四條 鹽ノ雜受ニシテ特ニ領收書ヲ發スヘキトキハ第七號書式ノ領收書ヲ發スヘシ

第四章 外國鹽輸入及臺灣鹽移入

第十五條 外國鹽ノ輸入及臺灣鹽ノ移入ニ關シテハ輸入取扱人又ハ移入取扱人ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ但シ輸入取扱人又ハ移入取扱人ハ大藏大臣之ヲ定メ其ノ命令書ト共ニ之ヲ關係鹽務局ニ通知スヘシ

第十六條 外國鹽ノ輸入ヲ爲サムトスルトキハ第八號書式甲ノ命令書ニ產地、種類、品質、數量、到達期限及受渡場所ヲ記載シテ輸入取扱人ニ示シ之ニ對スル請負價額ヲ申出テシムヘシ

前項ノ請負價額ヲ相當ト認メタルトキハ之ヲ命令書ニ記入シ鹽務局長捺印ノ上輸入取扱人ニ交付シ同號書式乙ニ依リ請書ヲ提出セシムヘシ

第十七條 外國鹽ノ輸入命令ヲ發シタルトキハ第八號書式丙ニ依リ關係稅關ニ通知スヘシ

第十八條 輸入取扱人外國鹽到達ノ旨ヲ申出タルトキハ鹽務局長ハ輸入取扱人立會ノ上命令書ニ照査シテ現品ノ調査ヲ爲スヘシ

第十九條 前條ノ場合ニ於テ命令書記載事項ニ適合スルコトヲ認メタルトキハ第九號書式ノ外國鹽輸入票ヲ調製シテ之カ受入ノ手續ヲ爲シ請負價額仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ







第三十條 特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ爲シタルトキハ第十四號書式ニ依リ外國ニ輸出スルモノニ在リテハ輸出港稅關ニ醬油釀造用ニ使用スルモノニ在リテハ使用地所轄稅務署ニ賣渡ノ通知ヲ爲スヘシ

特別定價ヲ以テ賣渡シタル鹽ノ用途變更ヲ許可シ又ハ輸出港輸出先使用場所出漁船名出港地名ノ變更申告アリタルトキハ前項ニ準シ之カ通知ヲ爲スヘシ

第三十一條 外國鹽ノ賣渡ヲ請求セムトスル者アルトキハ鹽ノ產地、種類品質數量ヲ記載シタル賣渡請求書ヲ提出セシムヘシ

第三十二條 前條ノ請求アリタルトキハ輸入取扱人ニ示シテ輸入請負價額ヲ申出デシメ之ニ依リ鹽ノ賣渡價額ヲ豫定シ擔保額及鹽引渡時期ヲ定メ之ヲ賣渡請求者ニ通知シ擔保ノ供託受領證ヲ提出セシムヘシ

第三十三條 外國鹽到達シタルトキハ其ノ旨ヲ賣渡請求人ニ通知シ鹽代金ヲ納付セシメタル上現品交付ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十四條 鹽ノ亡失、棄却、標本用拂出等ノ雜拂ヲ爲ストキハ第十五號書式ノ拂出票ヲ作製シ番號拂出ノ事由包裝數等級數量及賠償金額ヲ記入シ拂出ノ手續ヲ爲スヘシ

前項拂出票ニハ亡失、棄却、標本用拂出其ノ他雜拂ノ區分ヲ摘要欄ニ記入シ外國鹽又ハ臺灣鹽ニ係ルトキハ其ノ區分ヲモ記入スヘシ

第六章 指定引渡

第三十五條 鹽專賣法施行細則第十三條第二項ニ依リ鹽務局長其ノ指定シタル者ニ鹽ノ引渡ヲ命スルハ鹽ヲ鹽務局長ニ納付セシムルヲ以テ甚シキ不便アリト認メタル場合ニ限ル

第三十六條 鹽務局長ハ豫メ前條ニ該當スト認ムル製造人ヲ定メ之ヲ其ノ本人ニ通知シ置クヘシ

第三十七條 鹽務局長前條ノ通知ヲ爲シタルトキハ豫メ其ノ製造人ノ製造シタル鹽ヲ引取ルヘキ

者ヲ定メ鹽務局長ノ通知ニ依リ直チニ鹽ノ引取ヲ爲スヘキコトヲ承諾セシメ置クヘシ

第三十八條 第三十六條ニ該當スル者鹽專賣法施行細則第十三條第一項ニ依リ鹽ノ數量ヲ申告シタルトキハ指定引渡人鹽製造申告簿ニ記入シ置キ相當ノ數量ニ達シタルトキハ前條ニ依リ引取入ト定メタル者ニ通知シ鹽務局長ト共ニ引渡場所ニ臨マシメ鹽ノ引取ヲ爲サシムヘシ

第三十九條 前條ニ依リ鹽務局長ヲ出張セシメタルトキハ第十六號書式ノ鹽引渡命令書ニ製造人氏名、製造場所、製造年月日、引取人住所氏名ヲ記入シ之ヲ携帶セシムヘシ

第四十條 鹽務局長引渡場所ニ臨ミタルトキハ鹽ノ鑑定秤量ヲ爲シ等級、數量、賠償金額及賣渡金額ヲ引渡命令書ニ記入シ之ヲ製造人ニ開示シ異議ノ有無ヲ質スヘシ

第四十一條 製造人前條ノ鑑定等級ニ異議ナキトキハ鹽務局長ハ引取人ニ對シ口頭ヲ以テ賣渡金額ノ納入告知ヲ爲スヘシ

第四十二條 引取人賣渡金額ヲ納入シタルトキハ鹽務局長ハ製造人ニ對シ現品ノ引渡ヲ命シ之ニ賠償金ヲ交付シ引渡命令書ニ現金領收印ヲ捺捺セシムヘシ

第四十三條 鹽務局長引渡命令ヲ終リタルトキハ鹽務局長ニ復命シ引渡命令ニ其ノ承認ヲ受クヘシ

第七章 鑑定

第四十四條 鹽ノ鑑定ヲ爲ス場合ニ於テハ能ク混合シタル上相當ノ量ヲ採リ可檢物ト爲スヘシ但シ包裝シタルモノニ在リテハ同一製造人ノ納付セムトスル鹽ニシテ品質類似シタルモノニ限リ包裝百ニ付五(百ニ付五)割合カ總數五十以上ニ上ルトキハ五十トス)ノ割合ヲ以テ各包裝ヨリ一定量ヲ摘出シ相混合シテ可檢物ト爲スヘシ

第四十五條 鹽ノ鑑定ハ其ノ乾濕、色澤、夾雜物ノ多少等ヲ查察シ標本ト對照シテ之ヲ行フヘシ

第四十六條 前條ノ方法ニ依リ鹽ノ等級ヲ定メ難キトキハ左ノ方法ニ依リ分析試驗ヲ行ヒ其ノ等



級ヲ定ムヘシ

- 一 五十瓦ノ可檢鹽ヲ蒸餾水ニ溶解シ五百立方センチメートルトナシ之ヲ濾過スヘシ
- 二 第一號ノ濾液七十立方センチメートルヲ採リ多量ノ炭酸重土ヲ加ヘ十分間煮沸シ冷却後蒸餾水ヲ加ヘテ原容ニ復セシメ之ヲ濾過スヘシ其ノ濾液五十立方センチメートルニ二分ノ一定規炭酸加里液五十立方センチメートルヲ加ヘ煮沸シ之ヲ濾過シタル後更ニ其ノ濾液八十立方センチメートルヲ採リ二分ノ一定規鹽酸ヲ以テ過剩ノ炭酸加里ヲ滴定シ亞爾加里金屬以外ノ金屬ト化合シタル鹽素ノ量ヲ算出スヘシ
- 三 可檢鹽ヲ以テ適度ノ濃度ヲ有スル鹽液ヲ作り之ニ一定量ノ「コバルト」液(硝酸「コバルト」三十分ヲ蒸餾水六十分ニ溶解シタル液ニ亞硝酸曹達五十分ヲ蒸餾水五十分ニ溶解シタル液ヲ加ヘ更ニ冰醋酸十分ヲ加ヘテ攪拌シ一晝夜間放置シテ得タル上澄液)ヲ加ヘ一定時間内ニ於テ黃色沈澱ノ分離スル状態ニ依リ加里ヲ檢定シ之ニ化合シタル鹽素ノ量ヲ算出スヘシ
- 四 第一號ノ濾液十立方センチメートルニ蒸餾水ヲ加ヘテ百立方センチメートルニ稀釋シ其ノ二十五立方センチメートルヲ採リ十分ノ一定規硝酸銀液ヲ以テ總鹽素量ヲ檢定スヘシ
- 五 可檢鹽十瓦ヲ攝氏百四十度ニ於テ一時間熱シ其ノ減量ヲ以テ水分トナスヘシ
- 六 第二號及第三號ニ依リテ檢定シタル各鹽素量ノ和ヲ第四號ニ依リテ得タル總鹽素量ヨリ減シ其ノ殘數ヲ以テ曹達ト化合シタル鹽素トシ鹽化曹達ノ量ヲ算出スヘシ

第五號ニ依リ秤定シタル水分ノ量ト本號ニ於テ算定シタル鹽化曹達ノ量トノ和ヲ百ヨリ減シ其ノ殘數ヲ以テ夾雜物ノ量トナスヘシ

第四十七條 再鑑定ヲ求メタル者アルトキハ前條ノ方法ニ依リ分析試驗ヲ行ヒ鑑定書ヲ作成スヘシ

再鑑定ノ申立人ニハ前項ノ試驗ニ立會スルコトヲ得ル旨ヲ告ケ請求アルトキハ之ヲ試驗ニ立會

セシムヘシ

第四十八條 鹽務局長ハ第十七號書式ノ再鑑定決定書ヲ作成シ之ヲ再鑑定申立人ニ交付スヘシ

第八章 追徴及交付金

第四十九條 特別定價ヲ以テ賣渡シタル鹽ニ付追徴ヲ爲スヘキ場合ニ於テ追徴金納入告知書ヲ發送スルトキハ追徴ヲ爲スヘキ事由ヲ記載シタル書面ヲ併セテ送付スヘシ

第五十條 鹽專賣法第二十五條ニ依リ追徴ヲ爲ス場合ニ於テハ前條ニ準スヘシ

第五十一條 一般定價ヲ以テ賣渡ラ受ケタル鹽ヲ醬油釀造用、曹達硫酸曹達晒粉石鹼製造用、肥料用、獸皮保存用、鹽化曹達ニ其ノ用途、場所、數量及年月日ヲ記載シタル交付金下付請求書ニ鹽使用證明書、醬油釀造用證明書若ハ鹽變性證明書ヲ添附シ之ヲ提出セシムヘシ

第五十二條 前條ニ依リ交付金下付請求書ノ提出アリタルトキハ證明書類ノ調査ヲ爲シ交付金額ヲ算出シテ之ヲ請求書ニ記入シ請求人ヲシテ交付金額收證印ヲ捺捺セシメ仕拂命令書ヲ交付スヘシ

第五十三條 一般定價ヲ以テ賣渡ラ受ケタル鹽ヲ曹達硫酸曹達晒粉石鹼製造用、肥料用、獸皮保存用、鹽化曹達ニ其ノ用途、場所及年月日ヲ記入シタル使用證明申請書ヲ提出セシメ鹽ノ使用ニ付キ相當ノ監視ヲ施シ使用ノ事實ヲ確認シテ同號書式乙ノ使用證明書ヲ交付スヘシ

鹽變性證明書ノ交付ヲ請求スル者アルトキハ第二十號書式甲ニ依リ其ノ用途、數量、變性ノ方法、場所及年月日ヲ記入シタル變性證明申請書ヲ提出セシメ鹽ノ變性ヲ施シ同號書式乙ノ變性證明書ヲ交付スヘシ

第五十四條 一般定價ヲ以テ賣渡ラ受ケタル鹽ヲ鮭、鱈、鱈、鰻、鱈、鰻、鰻、鰻ニ使用シ交付金下付



ヲ請求セムトスル者アルトキハ第十八號書式ノ請求事項欄ニ鹽藏物ノ種類、數量、漁獲場所、鹽藏場所、漁獲物ノ移出先ヲ記載シタル交付金下付請求書ヲ提出セシメ検査地ヲ指定シテ鹽藏物又ハ殘存鹽ノ検査ヲ爲シ第五十二條ニ依リ交付金下付ノ手續ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ請求書ニ検査地名及検査年月日ヲ記入シ置クヘシ  
遠洋又ハ外國若ハ外國ノ沿海ニ於テ漁獲ヲ爲ス者ノ出漁前ニ提出スヘキ申告書ハ第二十一號書式ニ依ラシムヘシ

第九章 出納及保管

- 第五十五條 鹽ヲ出納スルハ鹽務局長ノ命令ニ依ルヘシ
- 第五十六條 鹽務局ニ鹽會計官吏ヲ置キ鹽ノ出納保管ヲ司掌セシムヘシ
- 第五十七條 鹽會計官吏ハ第二十二號書式ノ鹽出納簿ヲ作成シ其ノ受拂ヲ記入スヘシ
- 第五十八條 鹽ノ藏置ハ等級、包裝量等ニ依リ區分ヲ爲シ藏出ノ際ニ不便ナキコトニ注意スヘシ
- 第五十九條 鹽貯藏中量増又ハ量減アルコト明カトナリタルトキハ受入又ハ拂出ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第六十條 鹽貯藏中其ノ等級カ收納當時ノ等級ニ異ナルコト明カトナリタルトキハ第二十三號書式ノ等級變更票ニ依リ等級變更ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第六十一條 會計年度ノ終ニ於テハ在庫品ヲ調査シ前二條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第六十二條 鹽ノ亡失及出納計算書ニ關シテハ明治三十八年大藏省訓令第三十號物品出納規程第九條、第十二條及第十三條ヲ準用ス
- 第十章 帳簿及報告
- 第六十三條 鹽務局ハ左ノ帳簿ヲ設備スヘシ
  - 一 鹽製造許可臺帳
  - 一 鹽製造高臺帳
  - 一 鹽輸入高臺帳
  - 一 鹽移入高臺帳
  - 一 鹽受拂整理簿
  - 一 指定引渡人鹽製造申告簿
  - 一 特別定價鹽賣渡整理簿
  - 一 延納代金整理簿
  - 一 擔保物件整理簿
  - 一 鹽專賣法違反者處分簿
  - 前項帳簿ノ外補助簿ヲ設ケテ整理スルヲ便トスル場合ニ於テハ適宜之ヲ設クルコトヲ得

第二十四號書式

- 一 鹽製造高臺帳
- 一 鹽輸入高臺帳
- 一 鹽移入高臺帳
- 一 鹽受拂整理簿
- 一 指定引渡人鹽製造申告簿
- 一 特別定價鹽賣渡整理簿
- 一 延納代金整理簿
- 一 擔保物件整理簿
- 一 鹽專賣法違反者處分簿
- 前項帳簿ノ外補助簿ヲ設ケテ整理スルヲ便トスル場合ニ於テハ適宜之ヲ設クルコトヲ得
- 第六十四條 鹽製造許可臺帳ハ鹽製造ニ關スル願届ニ依リ記入スヘシ
- 鹽ノ製造ヲ廢止シタルトキ又ハ鹽ノ製造許可ヲ取消シタルトキハ鹽製造許可臺帳ノ削除ヲ爲スヘシ
- 第六十五條 鹽製造高臺帳ハ鹽納付書、鹽引渡命令書、自家用鹽申告及再製鹽製造高申告書ニ依リ記入スヘシ
- 第六十六條 鹽輸入高臺帳ハ鹽輸入取扱人ノ提出シタル書類及鹽輸入票ニ依リ鹽移入高臺帳ハ鹽移入申告書及鹽賣渡請求書ニ依リ記入スヘシ
- 第六十七條 鹽受拂整理簿ハ第七十二條定ムルトコロノ日計箋ニ依リ記入スヘシ
- 第六十八條 指定引渡人鹽製造申告簿ハ指定引渡人ノ鹽製造申告及鹽引渡命令書ニ依リ記入スヘシ
- 第六十九條 特別定價鹽賣渡整理簿ハ鹽賣渡請求書其ノ他關係書類ニ依リ記入スヘシ

第二十五號書式

第二十六號書式

第二十七號書式

第二十八號書式

第二十九號書式

第三十號書式

第三十一號書式

第三十二號書式

第三十三號書式



- 第七十條 延納代金整理簿及擔保物件整理簿ハ鹽賣渡請求書及代金徵收書類ニ依リ記入スヘシ
- 第七十一條 鹽專賣法違反者處分簿ハ通告又ハ告發ニ關スル書類ニ依リ記入スヘシ
- 第七十二條 左ノ各號ノ書類ニハ各別ニ第三十四號書式ノ日計箋ヲ添付スヘシ
  - 一 鹽納付書
  - 二 鹽輸入票
  - 三 臺灣鹽移入申告書
  - 四 鹽賣渡請求書
  - 五 鹽引渡命令書
  - 六 鹽代金追徵ニ關スル書類
  - 七 交付金下付請求書
  - 八 鹽受入票
  - 九 鹽拂出票
  - 十 鹽等級變更票
- 鹽賣渡請求書ノ日計箋ヲ作成スル場合ニ於テ現品引渡未済ノモノアルトキハ日計箋ノ備考ニ其ノ旨ヲ附記シ置キ其ノ書類ニ限リ再鹽會計官吏ニ送付スヘシ
- 鹽會計官吏前項引渡未済ノ鹽ヲ引渡シタルトキハ鹽賣渡請求書ノ整理ヲ爲シ整理終了シタルトキハ其ノ旨ヲ日計箋ノ備考ニ附記スヘシ
- 第一項ノ書類ハ月別及年別ニ之ヲ整理スヘシ
- 第七十三條 鹽務局ハ鹽製造許可臺帳及製造許可ニ關スル書類ニ依リ毎月末ニ於テ第三十五號書式ノ鹽製造許可報告表ヲ毎年四月一日及十月一日現在ヲ以テ第三十六號書式ノ鹽製造人員場數生産見込高報告表ヲ作成スヘシ

- 第七十四條 鹽務局ハ鹽製造高臺帳ニ依リ毎月末及毎年度末ニ於テ第二十七號書式ノ鹽製造高報告表及第二十八號書式ノ鹽製造高等級別報告表ヲ作成スヘシ
- 第七十五條 鹽務局ハ鹽輸入高臺帳ニ依リ毎月第三十九號書式ノ鹽輸入高報告表ヲ作成スヘシ
- 第七十六條 鹽務局ハ鹽移入高臺帳ニ依リ第四十號書式ノ鹽移入高報告表ヲ作成スヘシ
- 第七十七條 鹽務局ハ鹽受拂整理簿ニ依リ毎月末ニ於テ第四十一號書式ノ鹽受拂報告表ヲ作成スヘシ
- 第七十八條 鹽務局ハ鹽受拂整理簿及鹽等級變更票ニ依リ毎月末及毎年度末ニ於テ第四十二號書式ノ收納鹽受拂等級別報告表ヲ作成スヘシ
- 第七十九條 鹽務局ハ鹽賣渡請求書、交付金下付請求書及鹽代金追徵ニ關スル書類ニ依リ毎月末及毎年度末ニ於テ第四十三號書式ノ特別用途鹽賣渡報告表ヲ作成スヘシ
- 第八十條 鹽務局ハ歲入徵收簿、歲出簿及鹽受拂報告表ニ依リ毎年度末ニ於テ第四十四號書式ノ鹽專賣計算報告表ヲ作成スヘシ
- 第八十一條 鹽務局ハ延納代金整理簿ニ依リ毎月末ニ於テ第四十五號書式ノ代金延納高報告表ヲ作成スヘシ
- 第八十二條 鹽務局ハ鹽專賣法違反者處分簿ニ依リ毎年九月三十日及三月三十一日現在ヲ以テ第四十六號書式ノ鹽專賣法違反者處分報告表ヲ作成スヘシ
- 第八十三條 鹽務局出張所ニ於テ作成シタル報告表ハ之ヲ翌月十日マテニ鹽務局ニ提出シ鹽務局ハ之カ總括ヲ爲シ其ノ報告表ヲ同月二十日マテニ大藏省ニ提出スヘシ
- 第八十四條 本章規程ノ報告表ニシテ毎月ノ累計ヲ掲クヘキモノハ毎年四月ヨリ始メ翌年二月ニ終ルモノトス



第一號書式 (輪廓縱六寸橫九寸)

明治何年何月何日鹽製造許可證帳記帳簿

第何號	鹽製造許可願書
製造人住所氏名又ハ名稱印	何府縣何郡市何町村大字何番地 何 某
管理人名印	何郡市何町村大字何番地 何 某
製鹽方法	鹽田入濱製鹽
採掘地名及地番	何郡市何町村大字何番地
製鹽段別	鹽田何町何段何畝步
製鹽場位置	何郡市何町村大字何番地
鹹水又ハ鹹砂貯藏場位置	何郡市何町村大字何番地
製鹽貯藏場位置	何郡市何町村大字何番地
生產見込高	自明治何年何月何日何分何程 至明治何年何月何日何分何程 — 何 年 何 分 何 程
出願年月日	明治何年何月何日
指今年月日	明治何年何月何日

局(所)長	指令年月日	明治何年何月何日	調 査
	許可又ハ不許可	許可(何々ニ由リ不許可)	

備考

第二號書式 (輪廓縱六寸橫四寸五分)

第何號

鹽製造許可願指令書

何府縣何郡市何町村大字何番地  
何 某

明治何年何月何日出願鹽製造(又ハ何々ノ件許可ス)又ハ許可シ難シ  
明治何年何月何日 何鹽務局(何出張所)長 印

第三號書式 (輪廓縱六寸橫四寸五分)

何々願(申告)書

出願(申告)者住所氏名又ハ名稱印	製造人	何府縣何郡市何町村大字何番地 何 某
製鹽場位置	何郡市何町村大字何番地	
出願(申告)事項	製鹽段別何町何段何畝步ニ増加ノ件	
出願(申告)事由	鹽田增加ニ由ル	

明治何年何月何日鹽製造許可證帳記帳簿











明治何年何月何日  
右御請仕候也  
明治何年何月何日  
何府縣何郡市何町何番地  
何 某

(丙)

第何號	鹽輸入請負命令通知書	輸入請負命令 何府縣何郡市何町何番地
輸入請負命令 何年何月何日	輸入取扱人 住所氏名	何 某
輸入請負命令 何年何月何日	輸入取扱人 住所氏名	何 某
產地種類品質	噸量	輸入港
何國何鹽何	何斤何	明治何年何月何日
右之通輸入命令候ニ付此段及御通知候也 明治何年何月何日 何 稅 關 宛 何鹽務局 國		

第九號書式

(輪廊徑六寸橫九寸)

明治何年何月何日鹽輸入高懸帳記帳濟

第何號	鹽輸入票	輸入請負命令 何年何月何日及番號
輸入港	何	輸入取扱人 名 氏
受渡年月日	明治何年何月何日	何 某
受渡場所	何	額收價額 明治何年何月何日領收

第十號書式

(輪廊乙種六寸橫四寸五分)

明治何年何月何日鹽移入高懸帳記帳濟

第何號	鹽移入申告書	移入年月日 明治何年何月何日
移入船名	何	取扱人 何 某

局長	仕拂命令	鹽移入命令 明治何年何月何日 鹽出納簿登記濟	調查 鑑定 秤量 鹽會計 吏計
要 點	明治何年何月何日仕拂命令第何號	明治何年何月何日 何(款)何(項)何(目)何(節)	仕 拂
產地種類品質	何	何	何
包裝噸數	何	何	何
噸量	何	何	何
請負價額	何	何	何
程	何	何	何







局所長 <sup>㊦</sup>	納入告知	明治何年何月何日第何號何月何日限	徴收 <sup>㊦</sup>
鹽務出命令	明治何年度	何(款)何(項)何(目)	官廳會計 <sup>㊦</sup>
	歲入何部	明治何年何月何日鹽出納簿登記済	

備考 擔保提供ノ理由ヲ異ニスルモノアルトキハ其ノ區別及之ニ對スル金額ヲ區分シテ之ヲ摘要欄ニ記入スヘシ

第十二號書式 (輪廓 丙乙甲 縱六寸横四寸五分)

第何號	鹽使用濟證明申請書	何府縣何郡市何町何番地	某 <sup>㊦</sup>
申請人住所氏名	鹽藏物ノ種類 鹽藏物ノ數量 鹽藏場所 鹽藏場所ノ移出先	何何何斤	
事項	鹽藏物ノ種類 鹽藏物ノ數量 鹽藏場所 鹽藏場所ノ移出先	何何何斤	
申請年月日	明治何年何月何日		
局所長 <sup>㊦</sup> 關 査 <sup>㊦</sup>	證明年月日 明治何年何月何日 通知年月日 明治何年何月何日		

(乙) 第何號 鹽使用濟證明書

申請人住所氏名	何府縣何郡市何町何番地	何	某
申請事項	鹽藏物ノ種類 鹽藏物ノ數量 鹽藏場所 鹽藏場所ノ移出先	何何何斤	
申請年月日	明治何年何月何日		
右證明ス	明治何年何月何日		
第何號	鹽使用濟通知書	何府縣何郡市何町何番地	何
申請人住所氏名	何府縣何郡市何町何番地	何	某
申請事項	鹽藏物ノ種類 鹽藏物ノ數量 鹽藏場所 鹽藏場所ノ移出先	何何何斤	
申請年月日	明治何年何月何日		
右證明ス	明治何年何月何日		

申請人住所氏名	何府縣何郡市何町何番地	何	某
申請事項	鹽藏物ノ種類 鹽藏物ノ數量 鹽藏場所 鹽藏場所ノ移出先	何何何斤	
申請年月日	明治何年何月何日		
右證明ス	明治何年何月何日		
第何號	鹽使用濟通知書	何府縣何郡市何町何番地	何
申請人住所氏名	何府縣何郡市何町何番地	何	某
申請事項	鹽藏物ノ種類 鹽藏物ノ數量 鹽藏場所 鹽藏場所ノ移出先	何何何斤	
申請年月日	明治何年何月何日		
右證明書交付候ニ付通知候也	明治何年何月何日		
何鹽務局(何出張所) 印			



第十三號書式 (輪廓甲縦六寸横四寸五分)

第何號		鹽用途變更申請書	
申請人住所氏名	何府縣何郡市何町村何番地 何 某		
申請	鹽 數 量	何斤	明治何年何月何日
事項	鹽買受當初ノ用途 右用途ヲ何々ノ用途ニ變更ノ件 何		
申請年月日	明治何年何月何日		
局(所)長	調 査	不 許	可 許
可 明治何年何月何日 不 許 明治何年何月何日			
(乙)			
第何號		鹽用途變更許可書	
申請人住所氏名	何府縣何郡市何町村何番地 何 某		
申請	鹽 數 量	何斤	明治何年何月何日
事項	鹽買受當初ノ用途 右用途ヲ何々ノ用途ニ變更ノ件 何		
申請年月日	明治何年何月何日		
右許可ス(又ハ許可シ難シ)			
何鹽務局(何出張所) 團			

第十四號書式 (輪廓縦六寸横四寸五分)

第何號		鹽特別定價賣渡通知書	
鹽買受人住所氏名	何府縣何郡市何町村何番地 何 某		
賣渡年月日	等級	數量	摘 要
明治何年何月何日	何 等	何 斤	何々用途(又ハ何地(輸出等))
明治何年何月何日 宛 何鹽務局(何出張所) 團			
第十五號書式 (輪廓縦六寸横四寸五分)			
第何號		鹽拂出票	
包袋數 等級	數量	賠償金額	摘 要
何袋 何等	何斤	何 程	何々ノ爲亡失
局(所)長	鹽拂出命令	明治何年何月何日 鹽出納簿登記済	
鹽會計官	鹽 量	鑑 定	調 査
吏			



















**第二十五號書式 (輪廓縦八寸横一尺) (鹽製造高臺帳)**

備考  
一 再製鹽ハ原料鹽ノ見込數量ヲ摘要欄ニ記入スヘシ  
二 欲製鹽ハ試製ナルコト及其ノ期間ヲ摘要欄ニ記入スヘシ  
三 自家用鹽ハ其ノ數量ヲ生産見込高欄ニ内書附記スヘシ  
四 本臺帳ハ鹽製造許可願書ヲ以テ代用スルコトヲ得

製 所 造	何 郡 市 何 町 村 大 字 何 番 地		何 某
	何 郡 市 何 町 村 大 字 何 番 地		
一箇年 生産見込高	何	程	
月 日	摘 要	製 造	備 考
何月何日	納付書何號	一 等	
何月何日	自家用申告	二 等	100斤
何月何日	損書申告高	三 等	200斤
		四 等	200斤
		五 等	200斤
		計	500斤
			100斤

備考  
一 再製鹽製造高ハ計ノ欄ニ記入シ其ノ使用原料高ヲ備考ニ記入スヘシ但シ再製鹽ニシテ納付スヘキモノハ其ノ數量ヲ等級別ニ記入スヘシ  
二 自家用鹽アルトキハ一箇年生産見込高欄ニ内書附記スヘシ  
三 本臺帳ハ月計及累計ヲ付スヘシ  
四 本臺帳ハ市町村別ニ計ヲ付シ更ニ全管計ヲ付スヘシ

**第二十六號書式 (輪廓縦八寸横一尺) (鹽輸入高臺帳)**

區 別	年 月 日	産 地	種 類	品 質	數 量	單 價	取 扱 人 住 所 氏 名
輸入命令	明治三十八年何月何日	何 國	何 種	何 種	何 斤	何 圓	何 縣 何 郡 市 何 町 村 何 番 地
受入命令	明治三十八年何月何日	何 國	何 種	何 種	何 斤	何 圓	何 縣 何 郡 市 何 町 村 何 番 地
摘要							何 某

備考  
一 摘要欄ニハ輸入命令番號其ノ他必要ノ事項ヲ記入スヘシ  
二 本臺帳ハ月計及累計ヲ付スヘシ  
三 (鹽移入高臺帳)

**第二十七號書式 (輪廓縦八寸横一尺) (鹽移入高臺帳)**

移入番號	等級	包裝	數量	仕拂金額	受渡年月日	賣渡代金納付金額	納入告知年
何 何	何 何	何 何	何 何	何 何	何 何	何 何	何 何
何 何	何 何	何 何	何 何	何 何	何 何	何 何	何 何

備考  
本臺帳ハ月計及累計ヲ付スヘシ



第二十八號書式

(鹽受拂整理簿)

支出金額	收入金額	損	益	残量原價	備考
1,437.00 0					
762.00 0					
	1,822.00 0		1,184.00 0		
	212.00 0		86.00 0		
164.00 0	460.00 0		296.00 0		
650.00 0		650.00 0			
	180.00 0		130.00 0		
			95.00 0		
			76.00 0		
		88.00 0			
		95.00 0			
			14.00 0	1,387.00 0	二万斤三等ヲ 二等ニ變更ス
852.00 0					

第二十九號書式

(指定引渡人鹽製造申告簿)

年月日	摘要	數量		
		受	拂	残
四月一日	越 高	170.000		
ク	收納二件	90.000		
ク	賣 渡		80.000	
ク	特別定價賣渡		20.000	
ク	指定引渡三件	20.000	20.000	
ク	交付金二件			
ク	追 徴			
ク	不用標本受入	10.000		
ク	没 收	10.000		
ク	亡 失		10.000	
ク	量 減		10.000	
ク	等級變更			160.000
ク	二日 收 納	40.000		

備考

- 一 本簿ハ收納鹽、輸入鹽、移入鹽ニ分チ口座ヲ設ケヘシ
- 二 本簿摘要欄ハ左ノ事由別ヲ以テ記入スヘシ  
 收納輸入、移入、指定引渡、賣渡、特別定價賣渡、交付金、追徴、不用標本受入、沒收、量増、標  
 本用拂出、棄却、亡失、量減、等級變更
- 三 等級變更ニアリテハ其ノ等級及數量ヲ備考ニ記入スヘシ
- 四 本簿ハ月計及累計ヲ記入スヘシ

製造所 何郡市何町村大字何番地

製造人 何

某



第三十號書式 (輪廓八寸横一尺) (特別定價鹽賣渡整理簿)

年 月 日	等級	賣渡 數量	輸出 數量	未輸出 數量	賣渡 金額	道 徵	買受人住所氏名	備 考
明 治 何 年 何 月 何 日	何 等	何 斤	何 斤	何 斤	何 程	何 程	何 地	何 某
明 治 何 年 何 月 何 日	何 等	何 斤	何 斤	何 斤	何 程	何 程	何 地	何 某
明 治 何 年 何 月 何 日	何 等	何 斤	何 斤	何 斤	何 程	何 程	何 地	何 某
明 治 何 年 何 月 何 日	何 等	何 斤	何 斤	何 斤	何 程	何 程	何 地	何 某

第三十一號書式 (輪廓八寸横一尺) (延納代金整理簿)

年 月 日	納 期	延 納	代 金	現 在 額	備 考
明 治 何 年 何 月 何 日	何 程	何 程	何 程	何 程	何 某
明 治 何 年 何 月 何 日	何 程	何 程	何 程	何 程	何 某

第三十二號書式 (輪廓八寸横一尺) (擔保物件整理簿)

年 月 日	擔 保 物 件	擔 保 額	受 拂	現 在	備 考
明 治 何 年 何 月 何 日	何 程	何 程	何 程	何 程	何 某
明 治 何 年 何 月 何 日	何 程	何 程	何 程	何 程	何 某

第三十三號書式 (輪廓六寸横九寸) (鹽專賣法違反者處分簿)

年 月 日	事 實	處 分	備 考
明 治 何 年 何 月 何 日	何 程	何 程	何 某
明 治 何 年 何 月 何 日	何 程	何 程	何 某



備考	處分	告發					通告							
		無罪又訴ハ何程	沒收何程	追徴金何程	罰金何程	裁判所名何裁判所	判決年月日明治何年何月何日	適用條項鹽專賣法第何條第何項適用	告發事由何々	年月日明治何年何月何日	沒收何程	追徴金何程	罰金何程	該當條項鹽專賣法第何條第何項該當

第二十四號書式 (繪圖縦四寸五分横六寸)

(日計箋) 明治何年何月何日鹽受拂整理簿記帳簿

等級	數量	單價		價額		備考
		圓	角	圓	角	
三	5,000	1	00	50	00	輸出
等	10,000	1	00	100	00	醬油釀造用
	15,000			150	00	
	10,000		94	94	00	魚類鹽藏用
三同計四合	85,000			244	00	

明治何年何月何日 特別定價賣渡何件

備考

一 賣渡請求書ハ收納鹽、輸入鹽移入鹽ヲ區別シテ日計箋ヲ附シ特別定價賣渡ニアリテハ其ノ用途ヲ備考ニ記入スヘシ

二 鹽引渡命令書ハ復命ノ日ヲ以テ整理シ備考ニ引渡年月日ヲ記入スヘシ但シ會計年度ヲ異ニスルトキハ引渡命令ヲ終リタル年度ヲ以テ整理スヘシ

三 鹽代金追徴ニ關スル書類ハ全帳ヨリ領收通知アリタル日ヲ以テ整理シ日計箋ニハ賣渡鹽ノ等級用途及追徴スヘキ鹽ノ斤數ヲ明ニスヘシ

四 鹽受入票ノ日計箋ニハ不用標本受入沒收、量増等ノ區別ヲ明ニスヘシ

五 鹽拂出票ノ日計箋ニハ標本用拂出、棄却、亡失、量減等ノ區別ヲ明ニスヘシ



明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十三號 鹽務局事務取扱手続

100

第三十五號書式 (輪廓縦六寸横九寸)

- 六 等級變更ノ日計鹽ニハ受入當時ノ等級價格ト變更ノ等級價格トヲ明ニスヘシ
- 七 代金追徴ノ日計鹽ニハ重要鹽特別定價賣渡及交付金下付規則第九條第一項、同第二項第十二條第十五條第十六條第一項、同第二項及鹽專賣法第二十五條等ノ區別ヲ明ニスヘシ
- 八 交付金下付請求書ノ日計鹽ニハ重要鹽特別定價賣渡及交付金下付規則第十九條第一號、同第二號、同第三號、同第四號ノ區別ヲ明ニスヘシ

製造場數	製造段別	生産見込高		備考
		自明治三十八年三月一日起至三十八年三月三十一日止	一箇年分	

年何月分  
許可報告表

報告表		明治何 製造 鹽			
結品益 種類	備考	事項	製造場所(町村名)	製造方法	製造人員
		可 (試製) (再製) 計取消 可(試製) 計止(再製) 許同同許同同廢不			

第三十六號書式 (輪廓縦六寸横九寸)

明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十三號 鹽務局事務取扱手続

101



明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十三號 鹽務局事務取扱手帳

明治何年何月分  
鹽製造高報告表

自家用	計	再製		備考
		原料	製品	

備考  
一 試験及再製ハ之ヲ區別シテ其ノ旨ヲ備考ニ附記スヘシ  
二 著シキ増減アリタルトキハ其ノ事由ヲ備考ニ附記スヘシ  
第三十七號書式 (輪廓縦六寸横九寸)

1103

明治何年何月何日現在 鹽製造場數人員生産見込高

製鹽場所在郡市町村名	製鹽方法	製造人員	製造場數	製鹽段別	一箇年分生産見込高

明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十三號 鹽務局事務取扱手帳

1102



明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十三號 鹽務局事務取扱手帳

1104

分  
報告表

五等	計	備考	産地別	納付	指定引渡
			何郡市何町村 何郡市何町村 計 累計		

備考 試製及再製ハ之ヲ區別シテ其ノ旨ヲ備考ニ附記スヘシ  
(輪廓縦六寸横九寸)

明治何年何月  
鹽製造高等級別

備考	産地別	一等	二等	三等	四等
	何郡市何町村 何郡市何町村 計 累計				

備考 試製及再製ハ之ヲ區別シテ其ノ旨ヲ備考ニ附記スヘシ  
(輪廓縦六寸横九寸)

明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十三號 鹽務局事務取扱手帳

1105



明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十三號 鹽務局事務取扱手帳

明治何年何月分  
鹽 移 入 高 報 告 表

納 要	本 月 分			累 計			備 考
	上 等	並 等	計	上 等	並 等	計	
包 裝 鹽 撤 計 累 計							

二〇七

第四十號書式 (輪廓縱六寸橫九寸)

明治何年何月分  
鹽 輸 入 高 報 告 表

輸入取扱人氏名	産 地	種 類	品 質	數 量	請 買 價 額

明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十三號 鹽務局事務取扱手帳

二〇六



第四十一號書式 (輪廓縦六寸横九寸)

明治何年何月分 鹽受拂報告表		摘要		金額			
數	量	摘要	本月分		累計		
			本月分	累計	本月分	累計	
越受	高入	納收 波 特別定額 指定引渡 何何計					
							出納
損差	支出	何何計 何何計 損益引 現在					
							何何計

第四十二號書式 (輪廓縦六寸横九寸)

明治何年何月分 收納鹽受拂等級別報告表						
一等	二等	三等	四等	五等	等外	計

受拂	一等	二等	三等	四等	五等	計
一等						
二等						
三等						
四等						
五等						
計						

備考 本表ハ收納鹽輸入鹽移入鹽ニ分子別表トナスヘシ







明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十三號 鹽務局事務取扱手帳

明治何年何月分 代金延納高報分表									
摘要	代金延納許可額			延納代金収入済額			延納代金現在額		
	圓	錢	厘	圓	錢	厘	圓	錢	厘
輸出 醬油釀造用 何 何 計 累計									

二二

第四十五號書式 (餘幅縦六寸横九寸)

備考	明治何年度 鹽專賣計算報告表						
	摘要		支出		收入		
		圓	錢	圓	錢	圓	錢
	某年度歳入						
	鹽專賣收入					66,000	000
	諸收入					495	000
	収入未済額					5	000
	計					66,500	000
	翌年度繰越額ノ償額					1,990	000
	某年度歳出						
	鹽賠償金	20,000	000				
	交付金	990	000				
	諸經費	40,000	000				
	前年度ヨリ繰越額ノ償額	2,500	000				
	前年度収入未済額	500	000				
	計	63,990	000				
	差引益	4,500	000				
		68,490	000			68,490	000

明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十三號 鹽務局事務取扱手帳

二二



第四十六號書式 (輪廓縦六寸横九寸)

備考

- 一 本表ハ收納鹽輸入鹽移入鹽ニ分チ別表トナスヘシ
- 二 輸入鹽移入鹽ノ代金仕拂未済アリタルトキハ其ノ金額及之ニ對スル鹽ノ数量ヲ備考ニ記入スヘシ

何月分 者處分報告表

犯罪ノ心 証ヲ得サ ルモノ	罰金		沒收品價額		追徴金		犯罪處分費		備考
	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	

何年 犯違法賣專鹽

摘要	通告履行者	直ニ告發シタルモノ		通告不履行ニ付告發シタルモノ	
		有罪	無罪及不起訴	有罪	無罪及不起訴
法第何條該營					

○大藏省訓令第四十四號  
 明治三十三年三月大藏省訓令第三號内國稅徵收費科目中滯納及犯則者處分費ノ項犯則者處分費ノ目  
 車賃ノ節ノ次位ニ「印紙貼用諸費」ノ節ヲ追加ス  
 明治三十八年五月十六日  
 稅務監督局  
 大藏大臣男爵曾禰荒助



○大藏省訓令第四十五號

明治三十六年三月大藏省訓令第十四號郵便電信電話官署歳入金歳出金並ニ歳入歳出外現金ノ交互振換及繰替ニ關スル取扱手續第一條第一項ヲ左ノ通改正ス

明治三十八年五月十八日

大藏大臣男爵曾禰荒助

第一條 郵便電信電話官署出納官吏ヨリ郵便爲替過超金振換納申込書ニ現金若クハ雜部金引出切符ヲ添へ過超金振換回納ノ請求アリタルトキハ金庫ハ規定ノ通引出切符ニ就テハ雜部金ヲ拂出シタル上又現金ノ場合ハ直ニ回送金振換受入ノ計算ヲ爲シ郵便爲替過超金振換受入證書ヲ交付スヘシ

○大藏省訓令第四十六號

警視廳 北海道廳 府 縣 大臣官房會計課 造幣局

印刷局 煙草專賣局 稅關 稅務監督局 稅務署

臨時稅關工部部 樟腦事務局 釀造試驗所 鹽務局

本年一月大藏省訓令第七號明治三十八年度大藏省所管歳入科目表歳入經常部第四款雜收入第五項雜入中ニ第十一目學校生徒授業料ノ目ヲ追加ス

明治三十八年五月二十日

○大藏省訓令第四十七號

警視廳 北海道廳 府 縣 大臣官房會計課 造幣局

印刷局 煙草專賣局 稅關 稅務監督局 稅務署

臨時稅關工部部 樟腦事務局 釀造試驗所 鹽務局

本年一月大藏省訓令第七號明治三十八年度大藏省所管歳入科目表歳入經常部第一款租稅第十八項舊稅追納中ニ第二目混成酒稅ノ目ヲ追加ス

明治三十八年五月二十四日

○大藏省訓令第四十八號

大藏大臣男爵曾禰荒助

稅務監督局 稅務署

明治三十六年六月大藏省訓令第三十一號稅務統計彙帳樣式中左ノ通改正及追加ス

明治三十八年五月二十六日

大藏大臣男爵曾禰荒助

一第二 直接稅負擔額表其一備考欄(四)ヲ「府縣稅ニシテ府縣制第三百三條第二項ニ依リ市町村へ分賦シタル金額ハ之ヲ備考ニ記載スルモノトス」ト改ム

一第一九 所得稅表中備考欄ニ左ノ一項ヲ加フ

(五) 非常特別稅法第二條第一項第三號第一種ノ所得稅ハ其稅率別納稅人員所得金額及稅額ヲ備考ニ記載スルモノトス

一第三〇 酒造稅表中種別欄燒酎ノ部ヲ左ノ如ク改ム

三十五度以下ノモノ

四十度以下ノモノ

四十五度以下ノモノ

四十五度ヲ超ルモノ

舊法ニ依ル四十五度以下ノモノ(三十七酒造年度分ニ限ル又舊法ニ依ル甘酒ヲ原料トシテ)

一表中備考欄(五)稅法第二十三條ノ二第一項ニ依リ「トアル」酒母、醪及麴取締法第九條ニ依リ「ト改ム

一第三二 含有酒精容量度數別燒酎査定石高表中種別欄「甘酒燒酎」其他ノ燒酎ノ區分ヲ廢シ第二欄ト第三欄ノ間ニ「三十五度以下」四十度以下」ノ二欄ヲ設ク

一第三四 十月一日現在持越酒類石高表中燒酎欄「甘酒燒酎」其他ノ燒酎ノ區別ヲ廢ス

一第三六 酒造稅免除表中種別欄廢酒類又ハ災害ニ罹リ飲用スヘカラサルニ至リタル酒類ニシテ「下」第二種ノ酒類ヲ「燒酎」ニ改メ「燒酎」欄「甘酒燒酎」其他ノ燒酎ノ區分ヲ廢ス

一第五八 賣藥稅表中備考欄ニ左ノ二項ヲ加フ



(三) 外國ニ輸出スルカ爲メ賣藥稅ヲ免除セラレタルモノニ係ル人員方數稅額ハ之ヲ備考ニ記載スルモノトス

(四) 非常特別稅法第二條第一項第十一號ノ賣藥營業稅ハ其稅率別營業人員方數稅額ヲ備考ニ記載スルモノトス

但シ一人ニシテ數方劑ヲ製造スルモノ、營業人員ハ製造價格ノ最モ多キ方劑ノ部ニ計算シ其  
他ハ各方劑ノ外部ニ書スルモノトス

一 第六三ノ六 毛織物消費稅擔保種別表中表名ノ「毛」ヲ削リ種別欄「徵收擔保ノモノ」輸出承認ノ  
モノノ區分ヲ廢ス

一 第七〇 直接國稅犯則者表中種別欄「營業稅」ノ次ニ「相續稅」ヲ加フ

一 第七二 間接國稅犯則行爲別人員表其一中第二欄「酒母膠又ハ」ノ五字及第九欄第十一欄ヲ削リ  
備考欄(三)ノ其十ヲ其十一ト改ム

一 同表其二中第二欄ト第三欄トノ間ニ「允許ヲ受ケスシテ葡萄酒又ハ果實酒ヲ製造シタルモノ」ノ  
一欄ヲ設ク

一 左ノ各表ヲ改正及追加ス

表

備考	合計	
	人員	稅額
(一) 會計年度ニ依リ記入スルモノトス		
(二) 依リ記入スルモノトス		
(三) 依リ記入スルモノトス		

第二九ノ二 通行稅

備考	種別	一等		二等		三等	
		人員	稅額	人員	稅額	人員	稅額
(一) 會計年度ニ依リ記入スルモノトス	何年度						
	汽車						
	二百哩以上						
	二百哩未滿						
	二百哩未滿						
	五十哩未滿						
	計						
	電車						
	(以下同上)						
	汽船						
二百海里以上							
二百海里未滿							
一百海里未滿							
五十海里未滿							
計							
合計							
何年度							
(以下同上)							

(二) 相續稅ヲ課セサルモノハ、中軍人ケル受ケラレテ於テ相續稅ノ全額若クハ半額免除ノ結果課稅ノ附シタルモノトス

軍人ケル受ケラレテ於テ相續稅ノ全額若クハ半額免除ノ結果課稅ノ附シタルモノトス

中軍人ケル受ケラレテ於テ相續稅ノ全額若クハ半額免除ノ結果課稅ノ附シタルモノトス

軍人ケル受ケラレテ於テ相續稅ノ全額若クハ半額免除ノ結果課稅ノ附シタルモノトス



明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十八號

課税価格十萬圓以上						合計		備考	第二九ノ三
人員	課税額	人員	課税額	人員	課税額	人員	課税額		
								(一) 會計年度ニ依リ當初ノ決定額ヲ記入スルモノトス	何年度
								(二) 相續開始地カ相續税法施行地ニ在ラサルモノハ印、延納ヲ許可シタルモノハ印、被相續人カ相續人ニ若クハ本家ノ戸主又ハ家族カ分家ノ戸主又ハ家族ニ不動産及船舶以外ノ財産ノ價格五百圓以上ヲ贈與シタルモノト看做サレタルモノハ印ヲ附シテ其人ノ課税價格額ヲ相當欄ニ内書赤記スルモノトス	相續税ヲ課シタルモノノ相續税ヲ課セサルモノノ合計
								(三) 本表中家督相續ノ第一種トハ相續人カ被相續人ノ家族タル直系尊屬ナルモノ、第二種トハ相續人カ被相續人ノ指定シタル者、民法第九百八十二條ヨリ選定セラレタル者、被相續人ノ家族タル直系尊屬又ハ入夫ナルモノ、第三種トハ相續人カ民法第九百八十五條ニ依リ選定セラレタルモノヲ云ヒ遺産相續ノ第一種トハ相續人カ直系尊屬ナルモノ、第二種トハ相續人カ配偶者又ハ直系尊屬ナルモノ、第三種トハ相續人カ第一種第二種以外ナルモノヲ云フ	何年度 (以下同上)

二三

相續開始數及課税區分表

戸主ノ死亡	戸主ノ失踪	家族ノ死亡	家族ノ失踪	戸主ノ隠居	戸主ノ國喪	戸主ノ籍失	戸主カ婚姻ニ因リテ去ルモノ	戸主カ離婚ニ因リテ去ルモノ	戸主カ死亡ニ因リテ去ルモノ	戸主カ失踪ニ因リテ去ルモノ	戸主カ失踪ニ因リテ去ルモノ	戸主カ失踪ニ因リテ去ルモノ	戸主カ失踪ニ因リテ去ルモノ	戸主カ失踪ニ因リテ去ルモノ	戸主カ失踪ニ因リテ去ルモノ	合計

明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十八號

二二〇







明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十八號

第二九ノ六 相續税擔保種別表

備 考	種 別	前年度ニ最高		本年度提供額		保費材料除額		現金充當額		年度末現在額	
		擔保セ ラレ、 税額	擔保物 ノ 價額 及 借入 金力	擔保セ ラレ、 税額	擔保物 ノ 價額 及 借入 金力	擔保セ ラレ、 税額	擔保物 ノ 價額 及 借入 金力	擔保セ ラレ、 税額	擔保物 ノ 價額 及 借入 金力	擔保セ ラレ、 税額	擔保物 ノ 價額 及 借入 金力
四月一日現在ニ依リ 記入スルモノトス	何年度 有價証券 土地物 建 物 保 證 人 合 計										
	何年度 (以下同上)										

二二五

明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十八號

第二九ノ五 相續税納額別人員

備 考	種 別	十	二十	三十	四十	五十	七十	百	百五十	二百	三百
		圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
(一)會計年度ニ依リ記入 スルモノトス	何年度 家督相續 遺產相續 合 計										
	何年度 (以下同上)										
(二)保證物價額及保證人 資力(資産ノ見積高)ハ 提供當時ノ時價又ハ 狀況ニ依リ掲記スル モノトス											
(三)保證物ノ交換増補又 ハ保證人ノ變換ヲ爲 シタルトキハ其更正 額ニ依リ計算掲記ス ルモノトス											
(四)擔保セラルル税額ハ 合計ノ額ニノミ掲記 スルモノトス											

二二四



明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十八號

第二九ノ八 相續税審査決定額表

當初決定額			請求額			更正額			更正ノ理由ナキモノ			更正ノ結果無資格		
人員	課税額	税額	人員	課税額	税額	人員	課税額	税額	人員	課税額	税額	人員	課税額	税額

二二七

明治三十八年五月 訓令 大藏省第四十八號

第二九ノ七 相續税延納年賦額表

審査未決額	備考	種別	前年度	年 制 額		
			ヨリ越高	何年度	何年度	何年度
	(一) 翌年三月末日 ヲ限り記入ス ルモノトス	何年度 家督相續 遺産相續				
	(二) 更正ノ結果無 資格ノ欄ニハニ 當初ノ決定額亦 係スルモノト ス	合 計				
		何年度 (以下同上)				

二二六



明治三十八年五月 勅令 大藏省第四十八號

第二九ノ九 相續税訴願訴訟										
備考	年次	決定額			請求額			更正額		
		人員	課税價格	税額	人員	課税價格	税額	人員	課税價格	税額
(一)一月一日現在 ニ依リ記入ス ルモノトス  (二)二種以上ヲ兼 テ造タル一方ニ 主筆シ他ハ赤 モトス	何年									

三二九

明治三十八年五月 勅令 大藏省第四十八號

ニ依ル決定額表										
更正ノ原因ナキモノ			更正ノ結果無資格			處分未決額			備考	年次
人員	課税價格	税額	人員	課税價格	税額	人員	課税價格	税額		
									(一)翌年三月末日 ヲ限リ記入ス ルモノトス  (二)決定額欄ニハ 最後ノ決定ニ 係ルモノヲ記 入スルモノト ス  (三)更正ノ結果無 資格ト付テ決定 タル者以前ノ決 定額ヲ赤モ トス	何年

三二八



明治三十八年五月 勅令 大蔵省第四十八號

業 税 表				第五一 輸入原料砂			
區 税		税 額		備 考	種 別	人 員	量 目
探 掘	採 取	税 額	合 計				
				(一)會計年度ニ依リ 記入スルモノト ス但 繰 區 數、坪 數ハ三月末日ノ 現在ニ依ル (二)礦産税額ニハ 製産物價格ニ稅 率ヲ乘シタルモ ノヲ記入スルモ ノトス (三)繰區税及税額合 計ノ真額ハ合計 關ノミニニ揭 モノトス	何 年 度 輸入原料糖使用高 十四號以下ノ原料糖 製 成 高 七號以下ノ糖蜜 十四號以下ノ砂糖 十五號以上二十號以 下ノ砂糖及糖水 二十號以上ノ砂糖及糖水 合 計 戻税スヘキ砂糖 何 年 度 (以下同上)		斤

二三〇

明治三十八年五月 勅令 大蔵省第四十八號

糖戻税表		第三七 酒母醗及麴製造表			
戻税金額	備 考	種 別	免許人員	製造場數	見込石數
	(一)會計年度ニ依リ 記入スルモノト ス (二)同一人ニシテ數 同ニ戻税ヲ受ク ルモ人員ハ一人 トシテ計算スル モノトス (三)輸入原料糖使用 高及製成高ハ各 目ノミヲ掲記ス ルモノトス	何 年 酒 母 何 年 麴 (以下同上)			石

二三〇



明治三十八年五月 關令 大藏省第四十八號

第六三ノ二 織物製造仲買小賣戸數表										第五九ノ二		
製 造			仲 買			小 賣				備 考	年 次	河 川
毛織物以外ノ織物	毛織物	計	毛織物以外ノ織物	毛織物	計	毛織物以外ノ織物	毛織物	計	採取區數			
											何年度	

三三三

明治三十八年五月 關令 大藏省第四十八號

砂金採取地稅表							第五九ノ一					
床	河床ニ非サルモノ			稅額合計	備 考	種 別	礦 産 稅			礦		
	稅額	採取區數	坪數				稅額	稅額	稅額	稅額	坪數	坪數

三三三











明治三十八年五月 勅令 大藏省第四十八號

第七二 間接國稅犯則								
備考	年次	自用=供スル場合ノ外政府ニ申告セシメテ製造シタルモノ	外國=輸出シタルモノ	命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ納付セシメタルモノ	消費稅納付前ニ其ノ製造場ヨリ輸出シタルモノ	消費稅納付前ニ於テ輸入シタルモノ	印紙ヲ貼用スルモノ	印紙ヲ貼用シタルモノ
	何年							

明治三十八年五月 勅令 大藏省第四十八號

行爲別人員表 其十 織物消費稅										
織物製造者 又ハ販賣者 其製造場 ニシテ相當 印紙ノ貼用 ナキモノヲ 所持シタル モノ	織物製造者 又ハ販賣者 其製造場 ニシテ相當 印紙ノ貼用 ナキモノヲ 所持シタル モノ	織物製造者 又ハ販賣者 其製造場 ニシテ相當 印紙ノ貼用 ナキモノヲ 所持シタル モノ	織物製造者 又ハ販賣者 其製造場 ニシテ相當 印紙ノ貼用 ナキモノヲ 所持シタル モノ	織物製造者 又ハ販賣者 其製造場 ニシテ相當 印紙ノ貼用 ナキモノヲ 所持シタル モノ	織物製造者 又ハ販賣者 其製造場 ニシテ相當 印紙ノ貼用 ナキモノヲ 所持シタル モノ	織物製造者 又ハ販賣者 其製造場 ニシテ相當 印紙ノ貼用 ナキモノヲ 所持シタル モノ	織物製造者 又ハ販賣者 其製造場 ニシテ相當 印紙ノ貼用 ナキモノヲ 所持シタル モノ	織物製造者 又ハ販賣者 其製造場 ニシテ相當 印紙ノ貼用 ナキモノヲ 所持シタル モノ	織物製造者 又ハ販賣者 其製造場 ニシテ相當 印紙ノ貼用 ナキモノヲ 所持シタル モノ	織物製造者 又ハ販賣者 其製造場 ニシテ相當 印紙ノ貼用 ナキモノヲ 所持シタル モノ
何年										







明治三十八年五月 訓令 陸軍省丙第十四號 丙第十五號

二四二

○陸軍省訓令丙第十四號

明治三十八年度當省所管歲入歲出科目表中へ左記ノ通増設ス

明治三十八年五月十三日

陸軍大臣寺內正毅

歲入臨時部

△印増設

款	項	目
官有物拂下代	△建物拂下代	△建物拂下代

○陸軍省訓令丙第十五號

明治三十八年度當省所管歲入歲出科目表中へ左記ノ通増設ス

明治三十八年五月二十二日

陸軍大臣寺內正毅

歲出臨時部

△印増設

款	項	目
砲臺建築費	兵器彈藥費	△砲組立及棧橋架設費
		△運搬費
		△彈藥費
		△砲組立及棧橋架設費
營繕費		

○陸軍省訓令丙第十六號

明治三十八年度當省所管歲入歲出科目表中へ左記ノ通増設ス

明治三十八年五月二十二日

陸軍大臣寺內正毅

歲出經常部

△印増設

款	項	目	節
軍事費	修繕費	△經理學校生徒會其他修繕	
		△東京砲兵工廠接續地買收	
		△福岡城門外通路新設	

○陸軍省訓令丙第十七號

明治三十八年度當省所管歲入歲出科目表中へ左記ノ通増設ス

明治三十八年五月三十日

陸軍大臣寺內正毅

歲出臨時部

△印増設

款	項	目	節
營繕費	新營費	△歩兵第四十聯隊井戸新設	

明治三十八年五月 訓令 陸軍省丙第十六號 丙第十七號

二四三



警備及初度調練費	海軍兵隊宿舍修繕及初度調練費	陸軍士官學校及模範	
----------	----------------	-----------	--

○文部省訓令第二號

明治二十五年二月 文部省訓令第二號書式中北海道廳府縣書記官位勳爵氏名圖トアルヲ北海道廳府縣事務官位勳爵氏名第二部長タル者圖ニ改ム

明治三十八年五月一日

文部大臣久保田讓

〔参照〕

明治二十五年二月 文部省訓令第二號ハ市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料支給規則ニ依リ交付スヘキ退職料扶助料證書等ノ書式ナリ

○大藏省訓令第五十二號

明治三十八年三月 大藏省訓令第十八號明治三十八年度煙草專賣局 葉煙草收納所 煙草製造所 賣局作業費事業費工場費中左ノ通改正ス

明治三十八年六月十二日

大藏大臣男爵曾禰荒助

一 工場用品ノ節解疏中「加工及運搬諸費、運送保險料共」トアルヲ「加工費共」ト改メ但書中「運搬用ノ日傭人足賃」ノ九字ヲ削除ス

二 治療諸費ノ次位ニ左ノ節及解疏ヲ追加ス

節 名 運搬費 工場用品(事務用ノ用紙帳簿ヲ除ク)ノ運搬費(運送保險料共)及荷造用品(荷造費但日傭人足賃ヲ除ク)

○大藏省訓令第五十三號

明治三十六年九月 大藏省訓令第三十九號稅務統計臺帳謄本提出期限表中左ノ通改正ス

明治三十八年六月十六日

大藏大臣男爵曾禰荒助

表 目

- 第三九ノ二 通行稅表 翌年度五月十五日
- 第三九ノ三 相續開始數及課稅區分表 翌年度五月十五日
- 第三九ノ四 相續稅表 同
- 第三九ノ五 相續稅納額別人員表 翌年度五月十五日
- 第三九ノ六 相續稅擔保種別表 同
- 第三九ノ七 相續稅延納年賦額表 翌年度五月十五日
- 第三九ノ八 相續稅審查決定額表 同
- 第三九ノ九 相續稅訴訟願訴訟ニ依ル決定額表 同



第三〇	酒造稅表	翌酒造年度十一月末日
第三六	酒造稅免除表	同
第三七	酒母、醪及麴製造表	同
第五二	醬油稅表	翌年二月末日
第五九ノ二	砂金採取地稅表	翌年度四月末日
第六三ノ二	織物製造仲買小賣戶數表	
第六三ノ三	織物消費稅表	
第六三ノ四	織物消費稅徵收分區表	
第六三ノ五	織物消費稅免除價格表	

但三十七年度分ノ提出期限ハ本年六月二十五日トス

○大藏省訓令第五十三號  
明治三十八年四月大藏省訓令第二十九號經費取扱規程第四條第五號「鹽指定引渡旅費」トアルヲ「收納賣渡及檢査旅費」ト改ム

明治三十八年六月二十一日  
大藏大臣男爵曾禰荒助  
警視廳 北海道廳 府縣 大臣官房會計課 印刷局  
造幣局 煙草專賣局 稅關 稅務監督局 稅務署  
臨時稅關工部部 樟腦事務局 釀造試驗所 鹽務局

○大藏省訓令第五十四號  
本年一月大藏省訓令第七號明治三十八年度大藏省所管歲入科目表歲入經常部第四款雜收入第五項雜收入中「第十二目鹽保管料」目ヲ追加ス

明治三十八年六月二十七日  
大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省訓令第五十五號  
明治二十六年大藏省訓令第三十二號預金保管物及供託物金庫出納事務規程第四條第一項ヲ左ノ通改正ス

明治三十八年六月二十九日  
大藏大臣男爵曾禰荒助

第四條 中央金庫ハ遞信省ヨリ送付シタル郵便貯金元加利子竝ニ仕拂利子ノ請求書ニシテ大藏省承認濟ノモノヲ同省ヨリ送付ヲ受ケタルトキハ之カ元加ヲ爲シ又ハ記入證明ノ手續ヲ爲スヘシ

陸軍一般

○陸軍省訓令第十八號  
明治三十八年度當省所管歲入歲出科目表中ヘ左記ノ通増設ス

明治三十八年六月十四日  
陸軍大臣寺內正毅

歲入經常部		△印増設	
款	項	目	節
官業及官有財產收入			
	官有物貸下料	△地所貸下料	
歲入臨時部			
官有物拂下代	物品拂下代	△遊式兵器拂下代	



歲出經常部

軍事費	修繕費	本位ニ 陸軍省丙第十九號 司法省第三號
-----	-----	---------------------------

○陸軍省訓令丙第十九號

當省所管臨時軍事費特別會計歲入歲出科目表中へ左記ノ通増設ス

明治三十八年六月三十日

臨時軍事費特別會計

陸軍一般

陸軍大臣寺内正毅

歲入

△印増設

款	項	目	節
軍資金	軍資金	雜收入	公債利子收入

○司法省訓令第二號

看守女監取締實務成績考査表監房配置表、特典者行狀審査簿、囚人刑事被告人懲治人別房留置人入監簿、拘留囚名籍様式別冊ノ通相定メ明治三十五年<sup>十二月</sup>司法省訓令第四號中在監人員報告日表ヲ廢ス

監獄

但別冊別三頒布ス (別冊略ス)

明治三十八年六月十三日

○司法省訓令第四號

明治二十六年內務省訓令第二十六號看守採用規則中左ノ通改正ス

司法大臣波多野敬直

明治三十八年六月二十二日

司法大臣波多野敬直

第二條中第一號ノ前ニ左ノ但書ヲ加フ

但書テ看守長、看守ノ職ヲ奉シタル者ハ年齡五十年迄志願スル事ヲ得

第三條第二號中「五尺」ヲ「四尺九寸」ニ改ム

〔參照〕

內務省訓令第二十六號看守採用規則(明治二十六年十二月十九日)抄録

第三條 看守志願者ハ品行方正年齡二十一年以上四十五年未満ニシテ徵兵ニ相當セス且ツ左ノ諸項ニ抵觸セサルモノタル

第三條 看守體格ノ検査ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

一 身長五尺以上ニシテ胸圍大約身長ノ半ニ等シク呼吸縮長ノ差一寸以上ノ者

○農商務省訓令第十一號

明治三十一年農商務省訓令第四十三號ハ之ヲ廢止ス

明治三十八年六月一日

農商務大臣男爵清浦奎吾

〔參照〕

明治三十一年<sup>十二月</sup>農商務省訓令第四十三號ハ森林法第六條ニ據リ森林ノ開墾ヲ許可シタルトキ其統計ヲ報告セシムルノ件ナリ



○農商務省訓令第十二號

明治三十七年農商務省訓令第八號生絲檢查所處務規程中左ノ通改正ス

生絲檢查所

明治三十八年六月八日

農商務大臣男爵清浦奎吾

第一條中正量部第一號ノ次ヘニ原量正量及練減檢定證調製ニ關スル事項「品位部第二號ノ次ヘニ品位檢定證調製ニ關スル事項」各一號ヲ加ヘ調査部第一號「檢定證調製ニ關スル事項」ヲ削ル第九條ヲ左ノ如ク改ム

所長ハ所務ノ爲所員ニ出張巡回ヲ命スルコトヲ得但シ所長出張巡回ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ旨農商務大臣ニ報告スヘシ

○農商務省訓令第十三號

明治三十八年農商務省訓令第二號科目表中歲出臨時部國有林野經營費ノ款事業費ノ項ノ末位ニ森林買上費ノ目ヲ設置ス

山林局 大林區署

○農商務省訓令第十四號

明治三十八年農商務省訓令第二號科目表中歲出經常部林區署ノ款事業費ノ項共通費ノ目ノ末位ニ被服費ノ節ヲ設置ス

農商務大臣男爵清浦奎吾

山林局 大林區署

○農商務省訓令第十五號

明治三十八年六月十六日

農商務大臣男爵清浦奎吾

鑛山監督署長左ノ願書ヲ受理シタル場合ニ於テ其ノ出願地ノ全部又ハ一部カ新ナル場所ニ係ルトキハ遲滞ナク願書ノ要旨ヲ其ノ出願地所管ノ地方長官ニ通知スヘシ

一 鑛業ノ出願

二 鑛業出願地ノ增區又ハ增減區願

三 鑛區ノ增區又ハ增減區願

地方長官前項ノ出願ニ關シ意見アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ五十日以内ニ意見書ヲ鑛山監督署長ニ送付スヘシ

明治三十八年六月二十七日

農商務大臣男爵清浦奎吾

大林區署

○農商務省訓令第十六號

明治三十三年農商務省訓令第十四號林野整理支局統計報告調製手續中左ノ通改正ス

農商務大臣男爵清浦奎吾

明治三十八年六月三十日

農商務大臣男爵清浦奎吾

林野整理支局統計報告調製手續目錄及進達期限中

第一號 不要存置林野處分離權總括表 每年度 每年七月三十一日

第二號 不要存置林野主產物賣拂總括表 同 同

第三號 不要存置林野處分調查功程一覽表 同 同

第四號 不要存置林野處分編入總括表ノ下 同 同 トアルヲ毎年度 每年七月三十一日ニ改ム

第五號 不要存置林野處分離權總括表 同 同

第六號 不要存置林野主產物賣拂總括表 同 同

第七號 不要存置林野處分調查功程一覽表 同 同

及其ノ說明ヲ削除ス

○農商務省訓令第十七號

明治三十八年農商務省訓令第二號科目表中歲出經常部林區署ノ款俸給及諸給ノ項及歲出臨時部國有林野經營費ノ款俸給及諸給ノ項ノ各末位ニ賞與ノ目ヲ設置ス

山林局 大林區署

農商務大臣男爵清浦奎吾

明治三十八年六月三十日

農商務大臣男爵清浦奎吾



○大藏省訓令第五十六號  
明治三十八年五月大藏省訓令第四十三號鹽務局事務取扱手續第五十條及第三十四號書式備考中及鹽專賣法第二十五條ヲ削ル

明治三十八年七月八日

大藏大臣男爵曾禰荒助

鹽務局

○大藏省訓令第五十七號  
明治三十八年四月大藏省訓令第二十九號經費取扱規程第四條中第五號及五收納賣渡及検査旅費ヲ削ル

明治三十八年七月二十二日

大藏大臣男爵曾禰荒助

鹽務局

○大藏省訓令第五十八號  
明治三十八年四月大藏省訓令第二十八號旅費支給規程第三條中「專賣取締」トアルヲ「鹽藏物其ノ他検査第七條中「認可ヲ受クヘシ」トアルヲ「適宜其ノ額ヲ定メ施行以前ニ支給額及施行期日ヲ申報スヘシ」ト改ム

明治三十八年七月二十二日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省訓令第五十九號  
警視廳 北海道廳 府縣 大臣官房會計課 印刷局  
造幣局 煙草專賣局 稅關 稅務監督局 稅務署  
臨時稅關工事部 樟腦事務局 釀造試驗所 鹽務局  
本年一月大藏省訓令第七號明治三十八年度大藏省所管歲入科目表歲入經常部第四款雜收入第二項懲罰及沒收金中ニ第四目鹽專賣法犯則者納金ノ目ヲ追加ス

明治三十八年七月二十四日

大藏大臣男爵曾禰荒助



明治三十八年七月 訓令 大藏省第六十號 陸軍省丙第二十號

○大藏省訓令第六十號

明治二十三年ハ大藏省訓令第二百一十一號任拂命令等盜取セラレ又ハ亡失シタルトキノ取扱手續中左ノ通改正ス

明治三十八年七月二十七日

大藏大臣男爵曾禰荒助

本文中規定ノ領收證書ノ七字ヲ刪リ「任拂切符」ヲ「通知書」ト改ム  
 第一項中金庫ニ於テ「明治二十三年大藏省令第十八號」トアルヲ「任拂命令等盜難又ハ亡失ノ場合ノ取扱ニ關スル大藏省令」ト改ム  
 第三項第五項中「又ハ會計主務官ヨリ交付セシ規定ノ領收證書」及「第二項」トアルヲ刪ル  
 第三項中「振換拂證書同括弧割書中」又ハ「振換拂證書及「任拂命令官ヨリ交付セシ通知書又ハ」トアルヲ刪ル

○陸軍省訓令丙第二十號

明治三十八年度當省所管歲入歲出科目表中へ左記ノ通増設ス

明治三十八年七月八日

陸軍大臣寺內正毅

△印増設

款	項	目	節
軍 事 費	修 繕 費	△ 比治山堡壘修繕	

歲出經常部

○陸軍省訓令丙第二十一號

明治三十八年度當省所管歲入歲出科目表中へ左記ノ通増設ス

明治三十八年七月十二日

陸軍大臣寺內正毅

△印増設

款	項	目	節
軍 事 費	修 繕 費	△ 比治山埋葬地修繕	

歲出經常部

○陸軍省訓令丙第二十二號

明治三十八年度當省所管歲入歲出科目表中へ左記ノ通増設ス

明治三十八年七月三十一日

陸軍大臣寺內正毅

△印増設

款	項	目	節
軍 事 費	俸 給 及 諸 給	△ 資 與	

歲出臨時部

明治三十八年七月 訓令 陸軍省丙第二十一號 丙第二十二號



未位三	費	費
△	第五師管下各部隊 震災復舊費	
△	第五師管下各部隊 震災復舊費	

○農商務省訓令第十八號

明治三十四年農商務省訓令第四號林區署旅費規則中左ノ通改正ス

大林區署

明治三十八年七月八日

農商務大臣男爵清浦奎吾

第五條ニ左ノ一項ヲ追加ス

小林區署所在地ト保護區間ニ於テ汽車旅行ヲ爲シタル場合ハ日額ノ外委任官ハ二等、判任官ハ三等汽車賃ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

第六條ノ三 小林區署員林務講習ノ爲林務講習地ニ出張シタルトキハ滞在日數ニ應シ日額五十錢ヲ支給ス

○農商務省訓令第十九號

明治三十二年農商務省訓令第二十五號林區署給與順序中第八號書式ヲ左ノ通改正ス

大林區署

明治三十八年七月八日

農商務大臣男爵清浦奎吾

第八號書式

何年何月分何款日額旅費及車馬賃(汽車賃)計算書

森林手簿照合簿

小林區署

何小林區署長(職員)(第何號保護區官舎詰) 官 氏 名 印

一金何圓何拾錢  
金何圓  
金何拾錢

何等日額七分半  
車馬賃  
汽車賃

此際

月 日	全 日 額	半 日 額	在勤地巡 回車馬賃	汽車 賃	備 考	
						何月一日
合 計	六	三	何拾錢	何拾錢		

(注意)

- 一月日ノ區ニハ旅行シタル日ヲ順次記載スヘシ
- 日額ノ區ニハ宿泊シタル日數ヲ全額宿泊セサル日數ヲ半額ノ區ニ記載スヘシ
- 在勤地巡回車馬賃ノ區ニハ在勤署又ハ官舎所在地内ヲ巡視シ遠距離ニ涉リ支給ヲ受クヘキ車馬賃ヲ記載スヘシ
- 汽車賃實費ノ區ニハ小林區署又ハ保護區(旅行ノトキ特ニ支給ヲ受クル汽車賃)ノ實費ヲ記載スヘシ
- 備考ノ區ニハ用途又ハ宿泊ノ地名車馬賃又ハ汽車賃ノ支給ヲ受クヘキ里程、兼務ノ小林區署又ハ保護區内ニ出張シタ



ル事由等ヲ記載スヘシ  
六 請求書ヲ省略スル場合ニ於テハ餘白へ請求事項ヲ記入スヘシ

○農商務省訓令第二十號

山林局 大林區署

明治三十八年農商務省訓令第二號科目表中歲出臨時部國有林作業費ノ款國有林作業費ノ項事業費ノ目ノ末位ニ被服費ノ節ヲ設置ス

明治三十八年七月二十六日

農商務大臣男爵清浦奎吾



○大藏省訓令第六十一號

警視廳 北海道廳 府縣 大臣官房會計課 造幣局  
 印刷局 煙草專賣局 稅關 稅務監督局 稅務署  
 臨時稅關工部局 樟腦事務局 釀造試驗所 鹽務局  
 本年一、大藏省訓令第七號明治三十八年度大藏省所管歲入科目表歲入臨時部第二款雜收入第二項返納金中二、第四目貸付金利子ノ目ヲ追加ス

明治三十八年八月一日

○大藏省訓令第六十二號

警視廳 北海道廳 府縣 大臣官房會計課 造幣局  
 印刷局 煙草專賣局 稅關 稅務監督局 稅務署  
 臨時稅關工部局 樟腦事務局 釀造試驗所 鹽務局  
 本年一、大藏省訓令第七號明治三十八年度大藏省所管歲入科目表歲入經常部第一款租稅第十一項兌換銀行券發行稅中二、第二目兌換銀行券制限外發行稅ノ目ヲ追加ス

明治三十八年八月二十八日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○陸軍省訓令丙第二十三號

明治三十八年度當省所管歲入歲出科目表中へ左記ノ通増設ス

陸軍一般

明治三十八年八月四日

陸軍大臣寺內正毅

種別	款	項	目	節
△印増設	歲入臨時部			
△雜	收入			



○陸軍省訓令丙第二十四號  
 明治三十八年度當省所管歲入歲出科目表中へ左記ノ通増設ス  
 明治三十八年八月十六日

歲出經常部

款	項	目	節
軍事費	修繕費	常關守備隊兵舎其 他機機營	
東京砲兵工廠作業	雜收入	雜收	
收入	雜收入	雜收	

△印増設

陸軍大臣寺內正毅  
陸軍一般

○陸軍省訓令丙第二十五號  
 明治三十八年度當省所管歲入歲出科目表中へ左記ノ通増設ス  
 明治三十八年八月二十三日

歲出臨時部

款	項	目	節
災害費	應兵第十聯隊被服 應其他火災復舊費	應兵第十聯隊被服 應其他火災復舊	

△印増設

陸軍大臣寺內正毅  
陸軍一般

○陸軍省訓令丙第二十六號  
 明治三十八年度當省所管歲入歲出科目表中へ左記ノ通増設ス  
 明治三十八年八月二十四日

歲出經常部

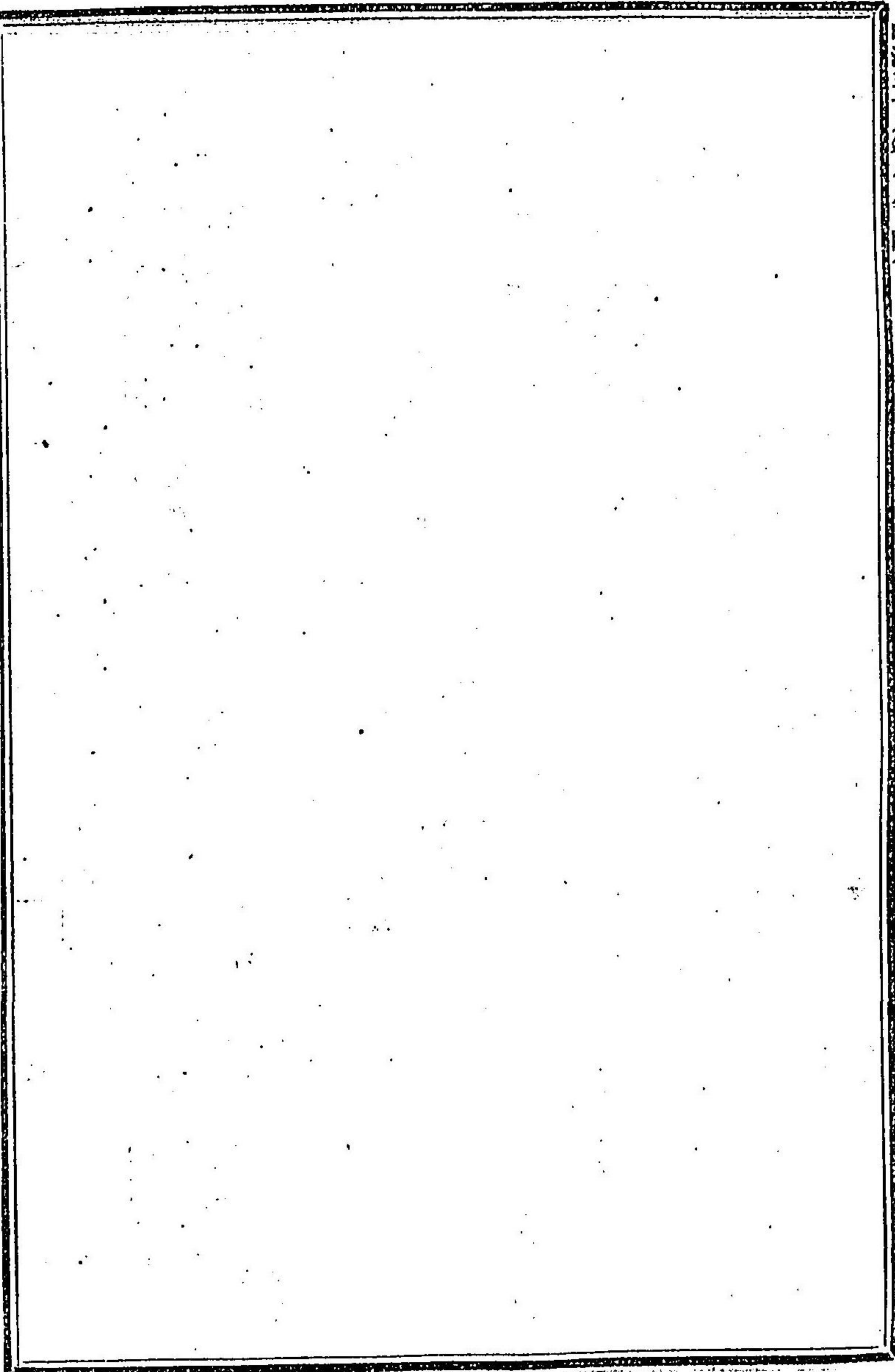
款	項	目	節
軍事費	修繕費	步兵第十五聯隊練 兵場外濠土邊修築	

△印増設

陸軍大臣寺內正毅  
陸軍一般



明治三十八年八月 訓令



三三



○内務省訓令第二十號

明治三十二年六月二十九號第二項以下左ノ通り故メ明治三十八年十一月二日ヨリ施行ス

廳府縣ヲ除ク

明治三十八年九月二十二日

内務大臣男爵清浦奎吾

職工徒第十人以上ヲ雇使シ且寄宿舎又ハ社宅アル工場ニハ其舎宅内ニ在ル職工ニシテ死者及疾病負傷ノ爲メ解雇ノ者アルトキハ其都度警察官署ニ届出テシメ又前記職工中疾病負傷ノ爲メ休業三十日以上ニ涉ル者アルトキハ毎月一回警察官署ニ届出テシムヘシ該届出ニハ職名、年齢、病症等ヲ附記セシムヘシ

前項届出アリタルトキハ警察官吏ハ其工場ニ臨ミ患者死者及解雇者ニ關スル救護其他ノ取扱振ヲ見届クヘシ

寄宿舎又ハ社宅内ニ職工百人以上ヲ有スル工場ニハ毎月一回其舎宅内ニアル職工數及患者數死者數ヲモ届出テシメ該職工數、患者數、死者數及其舎宅内ニ於ケル死者、疾病負傷ノ爲メ解雇又ハ休業三十日以上ニ涉ル者ノ職名、年齢、病症等工場別ニ調査シ翌月中ニ當省ヘ報告スヘシ

〔參照〕

内務省訓令第十九號(明治三十二年六月一日)

職工徒第十人以上ヲ雇使シ且寄宿舎又ハ社宅アル工場ニハ毎月一回其舎宅内ニ在ル職工數及其患者數死者數ヲ届出アセシメ且死者及疾病負傷ノ爲メ解雇ノ者及休業三十日以上ニ涉ル者ハ其職名、姓名、年齢、病症等ヲ附記セシムヘシ  
前項未段ノ病傷者アルトキハ警察官吏ハ其工場ニ臨ミ救護ニ關スル事項ヲ見届クヘシ  
第二項職工數及其患者數、死者數、疾病負傷ノ爲メ解雇ノ者又ハ休業三十日以上ニ涉ル者ノ職名、年齢、病症等ハ紡績業ノ如キハ工場別ニ依リ其他ハ製品類別ニ依リ毎年一月七月兩度ニ前半年表ヲ製シテ本省ニ報告スヘシ

明治三十八年九月 訓令 内務省第二十號



○大藏省訓令第六十三號

警視廳 北海道廳 府縣 大臣官房會計課 造幣局  
印刷局 煙草專賣局 稅關 稅務監督局 稅務署  
臨時稅關工部局 樟腦事務局 釀造試驗所 鹽務局  
本年一、大藏省訓令第七號明治三十八年度大藏省所管歲入科目表歲入經常部第一款租稅第十八項舊  
稅追納中ニ第三目北海道水產稅ノ目ヲ追加ス

○大藏省訓令第六十四號

明治三十八年九月九日

大藏大臣男爵曾禰荒助  
北海道廳 府縣 稅務監督局

○大藏省訓令第六十五號

明治三十七年大藏省訓令第十一號中左ノ通改正ス

大藏大臣男爵曾禰荒助

明治三十八年九月十一日  
第一號書式國稅金收納簿備考第一項中「田租」ノ下ニ「所得稅」ヲ加ヘ「延納年賦」ノ下ニ「所得稅」ヲ削リ  
第一號第二書式ヲ左ノ通改ム  
第二

前年第六期第	三期第	四期第	五期第	氏名
所得稅ハ第(期)	同第(二期)	同第(三期)	同第(四期)	

○大藏省訓令第六十五號

警視廳 北海道廳 府縣 大臣官房會計課 造幣局  
印刷局 煙草專賣局 稅關 稅務監督局 稅務署  
臨時稅關工部局 樟腦事務局 鹽務局 釀造試驗所  
明治三十八年一、大藏省訓令第七號明治三十八年度大藏省所管歲入科目表歲入經常部第四款雜收入

第五項雜入中ニ第十三目臺灣銀行配當金ノ目ヲ設置ス

明治三十八年九月十二日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省訓令第六十六號

明治三十六年九、大藏省訓令第三十七號 樟腦事務局事務取扱手續第十條中甲號ヲノ下ニ「所轄樟腦  
事務局又ハ」ヲ加フ

樟腦事務局

明治三十八年九月十四日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○陸軍省訓令第二十七號

明治三十八年度當省所管歲入歲出科目表中ヘ左記ノ通増設ス

陸軍一般

明治三十八年九月十五日

陸軍大臣寺內正毅

歲出經常部

△印増設

款	項	目	節
軍 費	修 繕 費	茶 壺	
		小 蒸 汽 船 修 繕	

○陸軍省訓令第二十八號

明治三十八年度當省所管歲入歲出科目表中ヘ左記ノ通増設ス

陸軍一般

明治三十八年九月十五日

陸軍大臣寺內正毅



歳出臨時部

款	項	目	節
災害費	臺灣各部隊風水害復舊費	臺灣各部隊風水害復舊費	
	八幡原火藥庫附屬橋梁水害復舊費	八幡原火藥庫附屬橋梁水害復舊費	

△印増設

○陸軍省訓令第二十九號

明治三十八年度當省所管歳入歳出科目表中へ左記ノ通増設ス

明治三十八年九月十八日

陸軍大臣寺内正毅

△印増設

陸軍一般

款	項	目	節
軍事費	修繕費	歩兵第三十一聯隊營内排水部修繕	

○司法省訓令第五號

明治三十四年<sup>十二</sup> 司法省訓令第九號監獄報告例中左記ノ通り改正追加ス

監獄

明治三十八年九月二十五日

司法大臣波多野敬直

- 一 第三表第十四表乃至第二十三表備考ニ左ノ一項ヲ追加ス
  - 一本表ハ罰金ノ換刑輕禁錮及拘留(換刑共)ニ處セラレタル者ヲ合算ス可カラス
- 一 第十四表乃至第十七表第二十表第二十二表中「刑法ノ違警罪」及「廳府縣ヨリ發シタル命令違犯並ニ違警罪處斷」ノ目ヲ削除ス
- 一 第十四表備考第一項其他ノ項ニ「下掲ケ廳府縣ヨリ發シタル命令違犯違警罪モ亦一括シテ」ノ二十四字ヲ削除ス
- 一 第二十九表備考第一項ノ但書ヲ削除ス





○内務省訓令第二十一號

廳府縣

戰局終リヲ告ケ 聖詔茲ニ煥發セラレタルノ時ニ當リ重テ地方重要ノ職ニ膺レル各位ニ對シ切ニ  
 其留意ヲ求メンコトヲ欲スルモノアリ

曩ニ帝國ノ露國ト露ヲ啓キテヨリ爾來茲ニ二十閱月國民義勇奉公ノ精神ハ勤勉共助ノ實踐ト相俟  
 テ克ク軍國ノ後援ヲ爲シタルモノ是レ各位ヲ始メ地方當局ノ有司カ勵精其力ヲ致シ一般民人ト相  
 頼リ相信シテ指導其宜シキヲ得タルモノ本大臣ノ深ク其勞ヲ多トスル所ナリ

今ヤ帝國ト露國トノ和約成立シ平和茲ニ克復ヲ見ルノ時ニ於テ各位ト共ニ優渥ノ詔勅ヲ拜ス  
 聖旨宏遠之ヲ捧讀スルモノ誰カ 大御心ノ至仁至厚ナルニ感激セサルモノアラシヤ邦家萬世ノ基  
 礎ヲ鞏固ニシ帝國ノ光輝ヲ發揚スルノ時機唯此時ヲ然リトス

惟フニ帝國ノ位置ハ東洋ノ平和ヲ確保スルノ大任ニ膺リ曩ニ日英同盟ノ約亦新ニ成リ其條章ノ發  
 表セラレ我國光ノ益宣揚セラレト同時ニ帝國ノ舉措國民ノ言動ハ更ニ列國ノ注視ヲ惹ク極テ  
 多キヲ加フルモノアリ而シテ其一旦干戈ヲ交ヘタル露國ハ再ヒ舊盟ヲ尋テ亦帝國友邦ノ一タリ我  
 國民ノ善鄰緝睦ノ氣象ニ敦キ爾餘締盟國ニ比シテ其接遇敢テ厚薄ヲ見サルヘキハ本大臣ノ深ク信  
 スル所ナルモ各位克ク其趣旨ヲ體シ其意義ヲ敷衍シ管下民人ノ帝國文明ノ光榮ヲ毀傷スルカ如キ  
 言動ナキヲ期スヘシ特ニ宗教ニ關スル措置ニ就テハ將來一層其保護ニ注意シ我國民ノ性格品藻ニ  
 對シ苟モ列國國民ヲシテ疑忌ヲ懷カシムルカ如キコトナキヲ要ス

開戰以來鉅億ノ軍資ヲ供給シ而モ内地ニ於ケル經濟ノ狀態ハ頗ル健全ニシテ之ヲ時局以前ノ狀況  
 ニ比シ却テ幾多民業ノ興振ヲ見ルニ至リタルモノ是實ニ内ニ在ル國民カ出征將卒ノ勞苦ニ察シ其  
 命ヲ重シ死ヲ輕シスルノ精神ヲ移シテ一意奉公ノ誠ヲ致シ刻苦黽勉其業ニ島メ其分ヲ竭シタル



ノ結果ニ依ルモノ多シト雖而軍資ノ多クカ内地産業社會ニ散布セラレタルノ餘慶亦與リテ力ナシトモ今ヤ平和克復ト同時ニ是等軍需品ノ供給ニ依リ其衣食ノ資ヲ得ルヤ細民ノ一時其職ヲ失ヒ其業ヲ轉スルノ際勢ヒ其生途ノ困難ニ遭遇スルノ已ムヲ得サルモノ亦少キニアササルヘシ此際戰後勞務ノ轉換ニ苦ム者ヲ救済シ併セテ經濟産業界ノ調和ヲ計ルノ途亦審サニ考慮ヲ要ス各位置メ克ク提掖指導以テ戰後失業者ノ徒ラニ其方向ニ迷ヒ困弊疲憊ノ虞ナキヲ期スヘシ

時局ノ始ニ當リ一般民人負荷ノ緩和ヲ圖ルカ爲メ道府縣以下地方公共團體ニ於テハ其事業ノ緊縮ニ努メ其從來地方行政ノ肅清ニ躊躇セシモノ之ヲ機トシテ斷行宜シキヲ得タルモノ亦極テ少カラズ今後一般財務ニ關シ尙益々之カ整理ニ留意シ敢テ其失墜ナキヲ期スヘキハ固ヨリ言フ俟タズ而モ國運ノ進歩ハ退嬰徒ラニ消極ノ状態ニ甘シスルヲ許サハルモノアリ乃チ其將來ニ處スル須ラク事ノ輕重緩急ヲ精査シ以テ公益ヲ進メ資源ヲ拓キ整理經營ニツナカテ其宜シキヲ制シ地方團體ヲシテ其鞏固健全ヲ發達ヲ遂ケシメ以テ益々其大成ヲ期スヘシ

時局以來士氣ノ奮興スル所藉シテ殖産教化勸勵貯蓄其他各種有益ノ施設トナリ地方協同ノ力ヲ要スル諸般ノ經營ヲシテ平時之ヲ舉クルニ難カリシモノ却テ戰時ヲ動機トシテ多ク其緒ニ就キ或ハ紀念的事業ノ名ニ依テ各地其發展ヲ見ルニ至リシハ各位置ト共ニ深ク慶シテ措カサル所然レトモ創業ハ易ク守成ハ難シ經營漸ク成テ實行之ニ伴ハサルトキハ或ハ畏ル施設中道ニシテ廢絶ノ不幸ヲ見ルナキヲ今ヤ平和克復シ人心漸ク荒蕪ノ虞ナキヲ保セス此際前般ノ施設ハ更ニ一層其充實ヲ完フシ其戰時ニ於テ能クセシ所ノモノ戰後益々之ヲ擴充シ以テ帝國將來ノ進運ニ資センコトヲ期スヘシ此ノ如クシテ懈ラズシテ獨リ千古無前ノ凱旋ニ對シ好個ノ紀念タルノミオラス又以テ永ク後世ニ對シ其率由スヘキ範ヲ示スニ足ラン

戰時多數ノ壯丁出テ、軍事ニ從ヘルニ拘ハラス内殖産ノ效果敢テ減退ヲ見ルニ至ラザリシモノ是レ一ニ老幼婦女相扶ケテ國家其業ニ勵ミ拮据勉勵其力ヲ悉セルノ致ス所益々之ヲ砥勵シテ其美風ヲ存養スルニ努ムヘシ今ヤ復タヒ其子弟ノ凱旋ヲ迎ヘントスルノ時ニ際シ凱旋者ノ風氣ハ自ラ一鄉ノ注視スル所タルヘキヲ以テ地方有志ノ士ハ宜シク歸還ノ壯丁ヲ善導シ其必要アルモノニ對シテハ之ニ業ヲ介シ職ヲ授ケ戰時ノ勇士ヲシテ亦能ク平和ノ時ニ於ケル勤勉ノ民タルヲ得セシメ以テ長ヘニ其功勳ト榮譽トヲ保タシムルノ道ヲ盡サンコトヲ望ム

交戰長日月ニ互リテ一般民人ノ負荷特ニ其重キヲ加ヘタルモノアルニ拘ハラス出征軍人ノ家族遺族ニ對シ男女方ヲ協セ貧富其分ヲ竭クシテ援護ノ業ヲササルナク其扶助ノ道ヲ圖ルニ方テモ亦徒ラニ金品ヲ給與シ遊手徒食ニ流ル、ノ弊ヲ避ケ各地其狀況ニ應シ生業ニ依リ之ヲ扶助シ以テ將來自營獨立ノ效果ヲ舉ケタルモノ亦尠シトセス帝國軍人ノ威武ヲ中外ニ發揚シタルモノ是等後援救護ノ道具サニ備ハリ出征者ヲシテ亦後顧ノ憂ナカラシメタルノ功與リテ力アルコト政府ノ深ク國民ノ至誠ヲ諒トスル所ナリ唯夫レ人心機微ノ間ニ軒輊シ情感ノ昂低或ハ平和克復ノ爲ニ左右セラル、ノ虞ナシトセス出征軍人ノ凱旋其郷ニ歸ルノ日ハ尙數箇月ヲ餘スモノアリ此際援護ヲ周到ニシ鄰保相扶ノ說ヲ發揮スルノ要彌々其緊切ヲ加フルノ今日ニ於テ各位ハ一層其部下ヲ督勵シ鄉黨鄰里一般民人ヲ砥勵シ毫モ懈怠ナキヲ期スヘシ若シ夫レ戰死者ノ遺族及殘兵ニ至リテハ其境遇悲慘真ニ憫諒スヘキモノアリ是等遺族ニ對シ其生業ヲ扶助シ其遺子ヲ教養スルノ途共ニ周到ヲ期シ以テ其奉公忠烈ノ義ニ酬ユルノ志ヲ明ニ瘖兵ニ對シテハ鄉黨鄰保又努メテ其負傷ノ因テ以テ基ノ所ノ名譽ヲ表彰スルノ方法ヲ案シ其負傷ノ輕重ニ從ヒ各適應ノ施設ニ依リ其不幸ヲ救済スルノ途ヲ講シ以テ鄉黨鄰里各其譽ヲ競フノ美風ヲ發揚シ長ヘニ帝國士氣ノ涵養其淵源ノ深キヲ中外ニ示



スハ獨リ負傷者ニ對シ感謝ノ誠ヲ致ス所以ナルノミナラス國民風化ノ振否亦之ニ依リテ上下スル所ナキニアラス是等ニ就テハ政府亦措畫スル所アリト雖其完キヲ期スル上ニ於テ地方有志ノ協力ニ俟ツヘキモノ極テ妙カラス各位特ニ周密提擧ノ勞ヲ盡サンコトヲ望ム  
出征軍人ノ歸還ニ際シ軍隊ノ上陸地集合地又ハ貨物ノ輻輳地ニ於ケル防疫風紀消防等ノ要務ニ關シテハ特ニ慎重ノ注意ヲ加ヘ還算ナキヲ期シ不慮ノ災厄ヲ防カンカ爲メ豫メ其警戒ヲ嚴ニスヘク其他警察衛生ニ屬スル設備ニシテ其切要ナルモノ宜シク之ヲ財政ト實況トニ稽査シ以テ之ガ計畫ヲ爲スヲ要ス

之ヲ要スルニ今日ノ事外列國ノ形勢ニ鑑ミ内國力充實ノ計一日ヲ緩フスヘキノ秋ニアラス其戰時ニ於テ見ルヲ得タル鬱勃旺盛ナル國民ノ意氣ハ亦之ヲ治平ノ時ニ移シテ上下一致益々其事ヲ勉メ其業ヲ勵ミ進取經營積累蘊蓄以テ國是ノ嚮フ所ニ從テ國本ノ培養ヲ圖ルヘシ乃チ是ニ依テ國家ノ光榮ヲ無疆ニ保チ國家ノ進運ヲ永遠ニ扶持スルヲ得ヘク此ノ如クニシテ始メテ以テ優渥深厚ノ聖旨ニ奉答スルヲ得ヘシ各位能ク此旨ヲ體シテ鞠躬努力其計ヲ悉クシ其任ヲ完フシ國民ノ氣宇ヲ大局ニ善導シ及時ノ務永遠ノ業ニツナカラ之ヲ克クセンコトヲ期スヘシ

明治三十八年十月十六日  
内務省訓令第二十二號

内務大臣男爵清浦奎吾

神官神職

日露ノ戰局今ヤ終リヲ告ケ爰ニ優渥ナル 聖詔ヲ奉拜スルニ至レリ曩ニ露國ト露ヲ啓キテヨリ爾來已ニ二十閱月皇軍切リニ外ニ勝チ民人内ニ業ヲ勵ミ國威更ニ中外ニ揚リタルハ一ニ至尊ノ御稜威ニ依ルモノナリト雖モ亦其間ニ於テ神官神職カ克ク神明ニ奉仕シ報公ノ誠ヲ竭シタルモノ蓋シ亦與テ力アリト謂フヘシ今ヤ平和克復シ皇國ノ威武海外ニ發揚スルニ當リ神事ニ奉仕

スル者ノ任亦更ニ重キヲ加フルモノアルヲ覺ユ神官神職タル者深ク 聖旨ノ在ル所ヲ奉體シ恭敬困誠其職ニ盡瘁シ益々國體ノ精華ヲ發揮スルコトヲ努メラルヘシ

明治三十八年十月十六日  
内務省訓令第二十三號

内務大臣男爵清浦奎吾

神佛道各管長

日露ノ戰局終リヲ告ケ爰ニ優渥ナル 聖詔ヲ奉拜スルニ至レリ願ミレハ交戰二十閱月連戰連勝遂ニ克ク開戰ノ目的ヲ達シ東洋治安ノ宏圖ヲ確立セラレタルモノ素ヨリ至尊ノ御稜威ノ然ラシムル所ナリト雖モ教宗派管長カ時局ニ處シテ能ク其職責ヲ盡シ部下教師ヲ督勵シ各々其任務ニ從ヒ奉公ノ誠ヲ致サシメタルノ功亦鮮シトセス今ヤ國家ノ光榮新ニ加ハリ國民ノ責任一層ノ重キヲ見ル布教ニ從事スル者宜シク國運ノ趨勢ニ鑑ミ民情ヲ調攝シ風俗ヲ提擧シ以テ 聖旨ニ奉答スル所ナカルヘカラス特ニ國憲ノ趣旨ヲ服膺シ人ヲシテ信教自由ニ關スル危惧ノ念ヲ絶タシムル如キハ布教傳道ヲ以テ其任ト爲ス者ノ最モ深ク意ヲ致サルヘカラル所トス管長タル者宜シク此意ヲ體シ部下ノ教師ヲ指導誘掖シ以テ其本分ヲ完フスルヲ期セシムヘシ

明治三十八年十月十六日

内務大臣男爵清浦奎吾

務稅監督局 稅務署

○大藏省訓令第六十七號  
明治三十八年十月十日  
大藏省訓令第四十一號中左ノ通改正シ明治三十八年十月十日ヨリ之ヲ施行ス  
第二條中「交付スヘシ」ヲ「交付シ」之ト同時ニ同號丙書式ニ依リ其ノ旨ヲ賣渡鹽務局ニ通知スヘシニ改ム



第三條中「交付スヘシ」ヲ「交付シ之ト同時ニ同號丙書式ニ依リ其ノ旨ヲ賣渡鹽務局ニ通知スヘシ」ニ改ム

第五條中「一般定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ以テ」ヲ「味噌又ハ一般定價ヲ以テ賣渡ヲ受ケタル鹽ヲ」ニ「交付スヘシ」ヲ「交付シ之ト同時ニ同號丙書式ニ依リ其ノ旨ヲ使用地所轄鹽務局ニ通知スヘシ」ニ改ム

第六條 前條ノ證明ヲ受ケタル者ノ溜醬油査定ニ關シテハ第四條ノ規定ヲ準用ス但シ査定通知書ハ使用地所轄鹽務局ニ送付スヘシ

第七條中「及鹽使用見込高」ヲ「鹽及味噌使用見込高」ニ「鹽使用承認高」ヲ「鹽及味噌使用高」ニ改ム

第八條 削除

第一號書式 (繪原 縦六寸横四寸五分)

(甲)

鹽使用承認申請書(鹽使用濟證明申請書)

申請人住所氏名	鹽油製造人 何府縣何郡市何町何番地 何 某
申請事項	鹽買受年月日及數量 何鹽務局何出張所 鹽使用年月日及數量 明治何年何月何日何斤 鹽使用場所 何郡市何町何番地
申請年月日	明治何年何月何日
署長	調 査 通知年月日 明治何年何月何日

(乙)

鹽使用濟證明書

申請人住所氏名	鹽油製造人 何府縣何郡市何町何番地 何 某
申請事項	鹽買受年月日及數量 何鹽務局何出張所 鹽使用年月日及數量 明治何年何月何日何斤 鹽使用場所 何郡市何町何番地
申請年月日	明治何年何月何日
右證明ス	明治何年何月何日 何 稅務署 團

(丙)

鹽使用濟通知書

申請人住所氏名	鹽油製造人 何府縣何郡市何町何番地 何 某
申請事項	鹽買受年月日及數量 何鹽務局何出張所 鹽使用年月日及數量 明治何年何月何日何斤 鹽使用場所 何郡市何町何番地
申請年月日	明治何年何月何日
右證明書交付候ニ付通知候也	明治何年何月何日 何 稅務署 團

第二號書式 (繪原 縦六寸)



未使用鹽承認申請書

申請人 住所氏名	鹽油製造人 何府縣何郡市何町村何番地 何 某 <sup>㊦</sup>
申請 事項	購買受年月日及數量 鹽渡鹽務局名 何鹽務局何出張所 明治何年何月何日何斤 鹽使用年月日及數量 何郡市何町村何番地 何斤 鹽使用場所 何 未使用鹽數量 何 同理由
申請 年月日	明治何年何月何日
署長	調査 <sup>㊦</sup> 證明年月日 明治何年何月何日 通知年月日 明治何年何月何日

(甲)

未使用鹽證明書

申請人 住所氏名	鹽油製造人 何府縣何郡市何町村何番地 何 某
申請 事項	購買受年月日及數量 鹽渡鹽務局名 何鹽務局何出張所 明治何年何月何日何斤 鹽使用年月日及數量 何郡市何町村何番地 何斤 鹽使用場所 何 未使用鹽數量 何 同理由
申請 年月日	明治何年何月何日

右證明書  
明治何年何月何日

何 稅 務 署 印

未使用鹽通知書

申請人 住所氏名	鹽油製造人 何府縣何郡市何町村何番地 何 某
申請 事項	購買受年月日及數量 鹽渡鹽務局名 何鹽務局何出張所 明治何年何月何日何斤 鹽使用年月日及數量 何郡市何町村何番地 何斤 鹽使用場所 何 未使用鹽數量 何 同理由
申請 年月日	明治何年何月何日
右證明書交付候ニ付通知候也	明治何年何月何日
何 稅 務 署 印	

(丙)

第三號書式備考中「生引溜」索引溜、ニ一ラ溜ノ査定高ヲ一特別定價鹽ニ關スルモノト一般定價鹽ニ關スルモノトニ改ム

第四號書式 (輪廓<sup>甲</sup>縦六寸横四寸五分)

申請人 住所氏名	鹽(味噌)使用證明申請書 鹽油製造人 何府縣何郡市何町村何番地 何 某 <sup>㊦</sup>
-------------	--

(甲)







第七號書式 削除

第八號書式 (輪廓縦六寸横九寸)

四 特別定價賣渡ニ係ル鹽使用高未使用鹽承認高及査定高ニ在リテハ賣渡鹽務局ノ欄ニ鹽賣渡年月日及賣渡鹽務局名ヲ記入スヘシ

何年何月分  
高報告表

味 增 使用高	査定高		製 造 場 數	製 造 人 員	鹽 油 製 造 見 込 高	鹽及味 使用見込		備 考
	何石	何斤				何斤	何斤	
何斤	何石	何斤	何程	何程	何石	何斤	何斤	

日 何稅務署長官氏名團

明 治  
鹽 使 用

郡市名 何 郡	鹽賣渡通知高			鹽 使 用 高 何 斤	未使用鹽 承認高 何 斤
	何鹽務局	何出張所	何斤		
	(一般定價)			何斤	何斤

明 治 何 年 何 月 何

備考

一 鹽使用高及査定高ノ欄ハ特別定價鹽ニ關スルモノト一般定價鹽ニ關スルモノトヲ區分記入スヘシ  
二 製造場數、製造人員、鹽油製造見込高、鹽及味增使用見込高ハ一月分及七月分報告表ニ限り記入スヘシ

○大藏省訓令第六十八號

明治三十八年五月 大藏省訓令第四十三號鹽務局事務取扱手續中左ノ通改正シ明治三十八年十月十日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十八年十月十日

大藏大臣男爵曾禰荒助

鹽務局



第二十七條第一項中「曹達」ノ上ニ「鹽酸」ヲ「肥料」ノ下ニ「選種」ヲ加ヘ第二項中「溜醬油」ノ「釀造」又ハ「削ル」

第二十八條ヲ第二十八條ノ一ニ改メ同條中第十二號書式ヲ第十三號書式ノ一ニ改ム  
第二十八條ノ二 銹鐵罐、銹鐵瓶、臘貯獸ノ鹽藏用ニ使用スル爲特別定價ヲ以テ鹽ノ賣渡ヲ受ケタル者其ノ未使用鹽ニ付承認ヲ申請スルトキハ第十二號書式ノ二甲ニ依リ買受年月日、數量、賣渡鹽務局名及使用ノ年月日、數量、場所、未使用鹽ノ數量及事由ヲ記載シタル未使用鹽承認申請書ヲ提出セシメ、鹽賣渡通知書及鹽使用濟證明書ニ照査シ其ノ未使用鹽ヲ檢査シ同號書式乙ノ未使用鹽證明書ヲ交付シ之ト同時ニ同號書式丙ニ依リ其ノ旨ヲ賣渡鹽務局ニ通知スヘシ  
第三十條第一項中「賣渡」ノ通知ヲ爲スヘシヲ「銹鐵罐、銹鐵瓶、臘貯獸ノ鹽藏用ニ使用スルモノ」ニ在リテハ鹽藏地所轄鹽務局ニ賣渡ノ通知ヲ爲スヘシ但シ帝國外ニ於テ鹽藏スルモノニ在リテハ出港地所轄鹽務局ニ通知スヘシニ改ム

第四十六條中第二號及第四號ヲ左ノ如ク改メ第三號中蒸餾水五十分ヲ「蒸餾水百分ニ第五號中「百四十度」ヲ「百二十五度乃至百四十度」ニ改ム  
二 第一號ノ溶液百立方「センチメートル」ヲ取り約五瓦ノ炭酸重土ヲ加ヘ約十五分間煮沸シ後蒸餾水ヲ加ヘテ百瓦トナシ之ヲ濾過シタル後其ノ濾液五十瓦ヲ秤取シ二分ノ一定規炭酸亞爾加里十立方「センチメートル」ヲ加ヘ約十五分間煮沸シ蒸餾水ヲ加ヘ百瓦トナシテ濾過シ其濾液八十瓦ヲ秤取シ之ニ「メチルオレンジ」液ヲ加ヘテ標示藥トナシ二分ノ一定規鹽酸液ヲ以テ過剩ノ炭酸亞爾加里ヲ逆測シ亞爾加里金屬以外ノ金屬ト化合シタル鹽素ノ量ヲ算出スヘシ

四 第一號ノ溶液二十立方「センチメートル」ヲ取リ蒸餾水ヲ加ヘテ二百立方「センチメートル」トナシ其ノ二十五立方「センチメートル」ヲ分取シ格魯誤加里液ヲ標示藥トナシ十分ノ一定規硝酸銀液ヲ以テ總鹽素量ヲ檢定スヘシ  
第四十九條中「特別定價」ヲ以テ賣渡シタル鹽ニ付「賣渡鹽特別定價賣渡及交付金」下付規則ニ依リ鹽代金ノ一ニ改ム  
第五十一條中「醬油釀造用」ノ下ニ「鹽酸」ヲ「肥料」ノ下ニ「選種」ヲ加ヘ「醬油查定證明書」ヲ削ル同條ニ左ノ一項ヲ加フ  
溜醬油釀造用ニ使用シタル味噌ニ對シ交付金ノ下付ヲ請求セムトスル者アルトキハ第十八號書式ノ請求事項欄ニ其ノ用途、使用ノ場所、數量及年月日ヲ記載シタル交付金下付請求書ニ味噌使用證明書ヲ添付シ之ヲ提出セシムヘシ

第五十三條中「曹達」ノ上ニ「鹽酸」ヲ加ヘ「肥料」ノ下ニ「選種」ヲ加フ  
第五十四條中「鹽藏場所」ノ下ニ「鹽藏年月日」ヲ加フ  
第十二號書式ノ一（輸瓶之體六寸横四寸五分）

第 何 號		鹽使用濟證明申請書	
申請人住所氏名	何府縣何郡市何町村何番地	某	㊦
申請	鹽買受年月日及數量	何	何
	賣渡鹽務局名	何	何
	鹽藏物種類及數量	何何斤（此鹽使用高何斤）	何
	鹽藏場所	何	何
	鹽藏年月日及場所	何	何
	鹽藏物移出先	何	何



(乙)

第何號	鹽使用濟證明書	何府縣何郡市何町村何番地	何
申請人住所氏名	某		

年 月 日	明治何年何月何日	證明年 月 日	明治何年何月何日	通知年 月 日	明治何年何月何日
局(所)長	調 査	通知年 月 日	明治何年何月何日	通知年 月 日	明治何年何月何日

(丙)

第何號	鹽使用濟通知書	何府縣何郡市何町村何番地	何
申請人住所氏名	某		

年 月 日	明治何年何月何日	證明年 月 日	明治何年何月何日	通知年 月 日	明治何年何月何日
局(所)長	調 査	通知年 月 日	明治何年何月何日	通知年 月 日	明治何年何月何日

(甲)

第何號	未使用鹽承認申請書	何府縣何郡市何町村何番地	何
申請人住所氏名	某		

年 月 日	明治何年何月何日	證明年 月 日	明治何年何月何日	通知年 月 日	明治何年何月何日
局(所)長	調 査	通知年 月 日	明治何年何月何日	通知年 月 日	明治何年何月何日

第十二號書式ノ二 (輪原 四乙甲 縱六寸横四寸五分)

申請年 月 日 明治何年何月何日  
 右證明書交付候ニ付通知候也  
 明治何年何月何日  
 何鹽務局(何出張所) 印

(乙)

第何號	未使用鹽證明書	何府縣何郡市何町村何番地	何
申請人住所氏名	某		

年 月 日	明治何年何月何日	證明年 月 日	明治何年何月何日	通知年 月 日	明治何年何月何日
局(所)長	調 査	通知年 月 日	明治何年何月何日	通知年 月 日	明治何年何月何日



申請 事項	申請 年月日	申請 年月日
鹽買受年月日及數量 鹽務局名 鹽務物種類及數量 鹽買年月日及場所 未使用鹽數量 同 事由	何 何 何 何 何 何	何 何 何 何 何 何
右證明ス	明治何年何月何日	明治何年何月何日
何鹽務局(何出張所) 印		

(丙) 未使用鹽通知書

申請 事項	申請 年月日	申請 年月日
鹽買受年月日及數量 鹽務局名 鹽務物種類及數量 鹽買年月日及場所 未使用鹽數量 同 事由	何 何 何 何 何 何	何 何 何 何 何 何
右證明書交付候ニ付通知候也	明治何年何月何日	明治何年何月何日
何鹽務局(何出張所) 印		

第三十二號書式備考中「溜醬油釀造用擔保」ヲ削ル  
第三十四號書式備考第七號中第十五條「ヲ削リ」第十六條第一項「同第二項」ノ下ニ「第三十二條ヲ加フ」

同號書式備考第八號中第十九條第一號「ヲ」第十九條第一項第一號「ニ改メ」同第四號「ノ下ニ」同條第二項「ヲ加フ」

第四十三號書式中備考「左ノ如ク改ム」  
一 本表ハ收納鹽輸入鹽移入鹽及味噌ニ分チ別表トナスヘシ  
二 味噌ニ關スル報告表ニ在リテハ特別定價賣渡ノ欄ニ斜線ヲ引キ追徴金ハ特別定價鹽ニ關スルモノト一般定價鹽ニ關スルモノトヲ區別シテ記載スヘシ

○大藏省訓令第六十九號  
明治三十八年四月二十二號鹽務局諸收入收納取扱規程第七條第二項中「翌日限リ」トアルヲ「三日以内」ト改ム  
鹽務局  
大藏大臣男爵會禰荒助

〔參照〕  
大藏省訓令第三十二號鹽務局諸收入收納取扱規程(明治三十八年四月二日)抄錄  
第七條 收入官吏ハ其ノ領收シタル納金ヲ即日金庫ニ拂込ムヘシ但金庫所在地以外ニ在ル收入官吏ハ翌日限リ之ヲ拂込ムヘシ

○陸軍省訓令丙第三十號  
明治三十八年度當省所管歲入歳出科目表中へ左記ノ適増設ス  
陸軍一般  
陸軍大臣寺內正毅



歲出臨時部

款	項	目	節
災害費	△ 野戰砲兵第四聯隊 馬糧庫火災復舊費	△ 野戰砲兵第四聯隊 馬糧庫火災復舊費	

△印増設

○陸軍省訓令第三十一號

明治三十八年度當省所管歲入歲出科目表中へ左記ノ通増設ス

明治三十八年十月十四日

陸軍一般

陸軍大臣寺內正毅

歲出臨時部

款	項	目	節
災害費	△ 對馬要塞防禦營造 物風水害復舊費	△ 對馬要塞防禦營造 物風水害復舊費	

△印増設

○文部省訓令第三號

客歲二月戰ヲ宣セラレシ以來茲ニ二十閱月軍國多事ナリシニ關ラス教育ノ事ハ減退ノ形跡ナク却テ好影響ノ認ムヘキモノアルハ職トシテ教育ノ事ニ當ル者カ皆能ク平時ニ於ケルヨリモ一層勵精其事ニ從ヒ誠實其任ヲ盡シタルニ由ラスシハアラス今ヤ皇軍連戰連捷ノ結果開戦ノ目的ヲ達シ平

和克復ヲ告グルニ當リ大詔煥發將來ノ嚮フ所ヲ明ニセラル我國民タル者能ク聖意ノ在ル所ヲ體シ國家富強ノ根源ヲ培養シ社會文明ノ進歩ヲ企圖スルニアラスンハ安ソ能ク國運ノ發展ニ應スルヲ得ン然リ而シテ國本ノ培養文化ノ發達ハ教育ニ特ツ所願大ナルモアリ戰後教育ノ經營ハ實ニ國家ノ急務ト謂フヘシ依テ本大臣ハ茲ニ教育上一二ノ要目ヲ舉示シテ局ニ當ル者ノ留意ヲ促シ以テ向後一層奮勵努力シテ其職務ヲ盡サントヲ求メントス

忠君愛國ノ精神ハ我國體ノ精華ニシテ國民ノ特長タリ今回ノ戰役ニ當リ陸海軍人カ皆死ヲ決シテ勇敢ニ奮闘シ一般國民カ舉國一致其後援ヲ爲シ内外相應シ終始一貫シテ赤誠奉公以テ能ク開戦ノ目的ヲ貫徹スルニ努メタル皆此精神ノ發現ニ外ナラス教育ノ事ニ當ル者ハ宜シク深ク茲ニ鑑ミ常ニ此精神ノ涵養ヲ努メ此精神ヲ基礎トシテ諸般ノ教育ヲ施シ平時ニ在リテハ國民ヲシテ舉國一致平和的國運ノ發展ニ盡サシメ又一旦緩急アレハ義勇公ニ奉スルノ實ヲ舉ケシムルノ用意ナカルヘカラス

國本ノ培養ニ就キテハ向後一層國民ノ努力ヲ要スルモノアリ國本培養ノ方法ハ一ニシテ足ラスト雖モ其本源ニ至リテハ主トシテ教育ニ由ラスンハアラス其局ニ當ル者ハ銳意學術技藝ノ發達ヲ圖ルハ勿論實業教育ノ如キ之ヲシテ益々適切有效ナラシムヘク一般教育ニ於テモ正直勤勉忍耐等ノ精神ヲ養成シ進取ノ觀念及勞働ヲ尙フノ氣風ヲ助長シ又貯蓄ヲ重スル習慣ヲ作ラシムヘシ若夫レ向後國民勝ニ扭レテ或ハ安逸遊惰ニ傾キ或ハ驕傲奢侈ニ陷ルカ如キコトアラハ奮ニ戰勝ノ結果ヲ没却スルノミナラス國家將來ノ爲深ク憂フヘキナリ此ノ如キハ今ヨリ嚴ニ戒慎ヲ加ヘサルヘカラス

近時學生生徒ノ體格ハ從前ニ比シテ漸次良好ニ赴クノ傾向アリト雖モ我國民ノ體格ハ尙改善ヲ要ス



スルコト甚切ナルモノアリ教育ノ事ニ當ル者ハ學校ニ於テハ勿論學校外ニ於テモ一層ノ注意ヲ加ヘ益々體育ヲ獎勵シ以テ智育德育ト相併進シテ決シテ偏輕スル所ナカラシメントヲ要ス

戰時各地方ニ施設シタル各種ノ紀念事業ハ戰争ノ終局ト共ニ廢滅ニ歸セシムヘキモノニアラス益々之ヲ維持發達ヲ圖リ一ハ以テ永久ノ紀念ト爲シ一ハ以テ教育上ノ目的ニ利用スルコトヲ慮ルヘカラス且戰役紀念事業中其計畫略成リテ未タ實際ノ施設ヲ見ルニ至ラサルモノ尠カラサルカ如シ此ノ如キハ宜シク速ニ之ヲ遂行完成シ以テ當初ノ目的ヲ達セシメントヲ期スヘシ

戰後各地方ニ於テ教育上施設ヲ爲スヘキモノニ至リテハ多ク之アルヘシト雖モ須ク其情況ニ應シテ事業ノ選擇ヲ審ニシ事ノ緩急ヲ稽ヘ宜シキニ從ヒテ國家ノ進達ニ伴フノ計畫ヲ爲スヲ要ス又是等積極的經營ヲ爲スト同時ニ從來ノ施設中其散漫ニ流ル、モノ、如キハ漸次之ヲ整理シ以テ益々經濟的利用ノ途ヲ講スヘキナリ

明治三十八年十月十八日

文部大臣久保田謙

○大藏省訓令第七十號

北海道廳 長崎縣 島根縣 鹿兒島縣 稅關 稅務監督局 稅務署 鹽務局

明治三十三年大藏省訓令第十六號中第二條第二項ヲ第三項トシ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
命令ノ定ムル處ニ依リ消費稅金ヲ領收シタル收稅官吏ハ所屬稅務署主任收入官吏ノ分任收入官  
吏ト心得ヘシ

○大藏省訓令第七十一號  
收納鹽等級記號附著方左ノ通相定ム

大藏大臣男爵曾禰荒助 鹽務局

明治三十八年十一月十八日

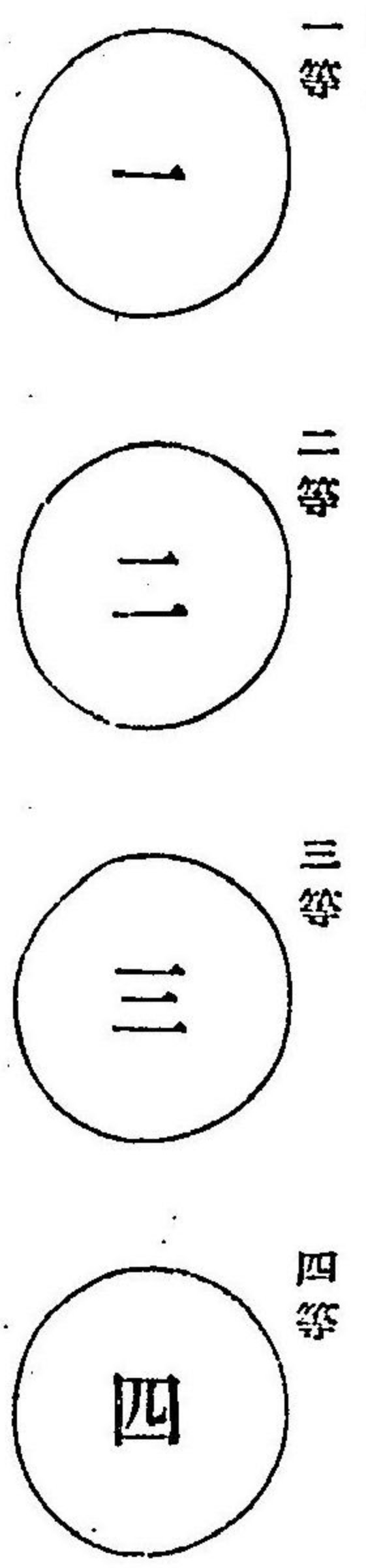
大藏大臣男爵曾禰荒助

第一條 收納シタル包裝鹽ハ其品質ノ等級ニ應ジ記號ヲ附スヘシ但シ鹽專賣法第十四條第二項ニ依リ收納スル鹽及五等鹽ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 記號ハ鹽收納ノ際之ヲ附スヘシ但シ收納ノ際附スルコト能ハサル場合ニ在リテハ賣渡ノ際之ヲ附スルモ妨ケナシ

第三條 記號ハ鹽包裝ノ外部ニ之ヲ附スヘシ

(記號雛形)



以上各標共直徑三寸







具シ農商務大臣ニ進達シ指揮ヲ受クヘシ

第二條 賣拂手續進行ノ命令アリタルトキハ大林區署長ハ相當ノ期間ヲ定メ出願者ヲシテ事業計畫書及計畫圖面ヲ提出セシメ左ノ事項ヲ詳記シタル書面ト共ニ意見ヲ具シ農商務大臣ニ進達スヘシ

- 一 林野ノ實況
- 二 從來產物利用ノ狀況
- 三 各年度斫伐スヘキ箇所、產物ノ種類及數量
- 四 利用及更新ノ方法
- 五 產物ノ單價及其ノ算定理由
- 六 保證金徵收ノ必要ナキモノハ其ノ理由

第三條 事業計畫書ニハ左ノ事項ヲ詳記セシメ附屬計畫圖ニハ林相ノ概樣、斫伐ノ順序並設備ノ種類及配置等ヲ明示セシムヘシ

- 一 製作ノ種類、運搬ノ方法、販賣又ハ使用ノ場所等ニ關スル要項
- 二 各年度引渡ヲ受クヘキ產物ノ種類及數量並其ノ斫伐箇所
- 三 設備ノ種類、構造、配置及其ノ建設期限
- 四 輸送ノ聯絡

第四條 主產物年期賣拂ノ契約書ハ第一號様式ニ、各年度引渡スヘキ產物ニ關スル通知書ハ第二號様式ニ準シテ之ヲ調製スヘシ

第五條 買受人ニ於テ各年度引渡スヘキ主產物ヲ同一年度内數回ニ分割シ又ハ數箇年度分ヲ一箇

年度ニ取繼メテ引渡スコトヲ出願シタルトキハ大林區署長ハ支障ナキ場合ニ限り之ヲ許可スルコトヲ得

第六條 左ノ場合ニ於テハ大林區署長ハ事由ヲ詳具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 前條ニ依リ數箇年度分ヲ取繼メタル引渡ヲ許可セムトスルトキ
- 二 設備ノ著シキ變更ヲ承認セムトスルトキ
- 三 契約條項ノ變更、契約ノ解除又ハ代金ノ還付ヲ爲サムトスルトキ
- 四 國有林野年期賣拂規則第二十五條ニ依リ認可ヲ爲サムトスルトキ

- 第七條 左ノ事項ニ付テハ其ノ都度農商務大臣ニ報告スヘシ
- 一 許可ノ取消及其ノ事由
- 二 契約締結ノ年月日
- 三 事業計畫書記載事項ノ變更但シ前條ニ依リ認可ヲ受ケタルモノヲ除ク
- 四 事業完了及設備收去ノ年月日並其ノ狀況

第一號様式

印紙 國有林野主產物年期賣拂契約書

何々國有林字何々ノ内

- 一 杉 何尺メ 此代金何程
- 一 松 何尺メ 此代金何程
- 一 何々 何々 〃〃〃〃
- 一 何々 何々 〃〃〃〃
- 一 何々 何々 〃〃〃〃
- 一 何々 何々 〃〃〃〃



合計 一 何々、、、、、 代金 何程、、、、、

何々大林區署長ト何誰トノ間前書ノ通國有林野主產物年額賣拂契約ヲ締結シ國有林野主產物年額賣拂規則ヲ承諾ノ上左ノ條項ヲ規定シ雙方署名捺印シ各壹通ヲ領收シ置クモノナリ

年 月 日

認約擔任官吏  
賣渡人 何々大林區署長官氏名 印  
買受人 氏名 又 ハ 名稱 印

- 一 契約保證金ハ金何程トス
- 一 前書ノ箇所ニ於ケル主產物ノ數量カ前書ノ數量ヨリ不足スルコトアルモ買受人ハ異議ヲ述フルコトナシ但シ不足分ニ對スル代金ハ之ヲ減額スルモノトス
- 一 賣拂ノ年額ハ明治何年何月ヨリ明治何年何月迄何箇年度トス
- 一 各年度引渡スヘキ產物ノ價格ハ左ノ單價ニ依リ引渡スヘキ產物ノ種類、數量ニ應シテ賣渡人ニ於テ決定スルモノトス
- 何々國有林字何々
- 一 杉 尺ノ單價金何程
- 一 松 尺ノ單價金何程
- 一 何々、、、、、
- 一 何々、、、、、
- 一 何々、、、、、
- 一 何々、、、、、
- 一 各年度引渡スヘキ產物ニ關シ必要ナル事項ハ賣渡人ニ於テ當該年度何月中ニ買受人ニ通知スヘシ但シ初年度分ハ契約締結ノ日ヨリ何日以内ニ通知スヘシ
- 一 買受人ニ於テ此ノ契約ニ依リ買受ケタル產物ニ關スル事業ノ爲使用スル職員ノ氏名及其ノ職責ハ豫メ賣渡人ニ通知シ異動ヲ生シタル毎ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
- 一 左ノ場合ニ於テハ買受人ハ其ノ都度賣渡人ニ其ノ旨ヲ申出ルモノトス
- 一 豫定設備ノ設置ニ著手シタルトキ又ハ各設備ノ設置ヲ完了シタルトキ
- 一 各年度分毎ニ產物ノ斫伐ニ著手シタルトキ又ハ其ノ運搬ヲ開始シ若ハ終了シタルトキ

第二號様式

通知書

第何回明治何年度分 買受人氏名又ハ名稱

箇所	面積	產物種類	數量	單價	代金	指 定
合 計						(代金納付期限、物件引渡期限、物件抽出期限及引渡宜願ヲ記入ス)

右ハ國有林野主產物年額賣拂規則第十五條ニ依リ通知ス

明治何年何月何日

何々大林區署長



○大藏省訓令第七十二號  
 警視廳 北海道廳 府縣 大臣官房會計課 造幣局 印刷局  
 煙草專賣局 稅關 稅務監督局 稅務署 臨時稅關工部局  
 樟腦事務局 釀造試驗所 鹽務局 大藏省臨時建築部  
 本年一月大藏省訓令第七號明治三十八年度大藏省所管歲入科目表歲入臨時部第二款雜收入中二第六  
 項利子收入第二目利子收入ノ項目ヲ追加ス  
 明治三十八年十二月七日  
 大藏大臣男爵曾根龍助

○陸軍省訓令第三十二號  
 明治三十八年度當省所管歲入歲出科目表中へ左記ノ通増設ス  
 明治三十八年十二月四日  
 陸軍大臣寺內正毅  
 陸軍一號  
 △印増設

歲出臨時部			
款	項	目	節
軍事費	修繕費	△陸軍大臣寺內正毅	
災害費			

明治三十八年十一月 明令 大藏省第七十二號 陸軍省第三十二號



明治三十八年十二月 訓令 陸軍省丙第三十三號 丙第三十四號

三〇〇

○陸軍省訓令丙第三十三號

明治三十八年度當省所管歲入歲出科目表中へ左記ノ通増設ス  
明治三十八年十二月九日

歲出經常部

△可成隊兵第七聯隊正位 其後火災復舊費	△可成隊兵第七聯隊正位 其後火災復舊費
△可成隊兵第七聯隊正位 其後火災復舊費	△可成隊兵第七聯隊正位 其後火災復舊費

陸軍大臣寺內正毅  
△印増設

陸軍一般

○陸軍省訓令丙第三十四號

明治三十八年度當省所管歲入歲出科目表中へ左記ノ通増設ス  
明治三十八年十二月十八日

歲出臨時部

△廣島海要港防禦營 造物火災復舊費	△廣島海要港防禦營 造物火災復舊費
△廣島海要港防禦營 造物火災復舊費	△廣島海要港防禦營 造物火災復舊費

陸軍大臣寺內正毅  
△印増設

陸軍一般

○陸軍省訓令丙第三十五號

當省所管臨時軍事費特別會計歲入歲出科目表中へ左記ノ通増設ス  
明治三十八年十二月二十五日

臨時軍事費特別會計

△騎兵第十二聯隊 舍火災復舊費	△騎兵第十二聯隊 舍火災復舊費
△騎兵第十二聯隊 舍火災復舊費	△騎兵第十二聯隊 舍火災復舊費

陸軍大臣寺內正毅  
△印増設

陸軍一般

○農商務省訓令第二十二號

明治三十八年農商務省訓令第二號科目表中歲出經常部林區署ノ款雜給及雜費ノ項ノ末位ニ給與ノ  
目ヲ設置ス  
明治三十八年十二月一日

農商務大臣男爵清浦奎吾

軍資金	軍資金	項目	節
	△末位ニ	運輸收入	△客車收入
			△貨車收入

明治三十八年十二月 訓令 陸軍省丙第三十五號 農商務省第二十二號

三〇一



○農商務省訓令第二十三號

明治三十八年農商務省訓令第二號科目表中歲出臨時部國有林作業費ノ款國有林作業費ノ項末位ニ賞與ノ目ヲ設置ス

山林局 大林區署

明治三十八年十二月十九日

農商務大臣男爵清浦奎吾

○農商務省訓令第二十四號

鑛業登錄事務ハ十二月三十一日迄取扱フヘシ

鑛山監督署

明治三十八年十二月二十八日

農商務大臣男爵清浦奎吾

○農商務省訓令第二十五號

明治三十三年農商務省訓令第十一號大林區署會計事務章程中左ノ通改正ス

大林區署

明治三十八年十二月二十八日

農商務大臣男爵清浦奎吾

第七十六條ノ二 國有林野又ハ其ノ產物ノ賣拂ニ關スル入札保證金ハ物件見積代金ノ百分ノ五以上、契約保證金ハ其ノ代金ノ百分ノ十以上トシ其ノ都度之ヲ定ムヘシ

第七十七條 明治三十二年ハ當省令第二十五號國有林野法施行規則同三十八年十一月 當省令第二十六號國有林野主產物年期賣拂規則同年十二月 當省令第三十三號 不要存置國有林野賣拂規則同第三十四號國有林野產物賣拂規則 同第三十五號 國有林野及產物賣拂入札規則並工事及物件賣買

入札手續ニ規定シタル保證金ハ左ノ區分ニ依リ保證金取扱官吏ヲシテ取扱ハシムヘシ  
一 入札保證金及契約保證金トシテ徵收スル現金ハ歳入歳出外現金出納官吏  
二 入札保證金及契約保證金トシテ徵收スル有價證券並郵便爲替證書及金庫ヘ寄託セシムル保證金ハ保管物取扱主任

第七十九條 入札若ハ契約保證金又ハ賣拂代金延納ニ關スル擔保トシテ徵收スル有價證券ハ額面金額ノ全部拂込濟ノモノニ限ル

第八十條 國有林野又ハ其ノ產物ノ賣拂ニ關スル契約保證金ト共ニ代金ノ全部又ハ一部ヲ納付セムトスル者アルトキハ成規ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第八十二條 入札又ハ契約保證金トシテ徵收スル有價證券ノ價格ハ明治三十八年一勅令第二十號ノ規定ニ依ルモノノ外時價ニ對シ一割ヲ減シテ算定スヘシ

第八十三條 入札若ハ契約保證金又ハ賣拂代金延納ノ擔保トシテ徵收シタル有價證券ヲ處分スル場合ニ於テ無記名證券アルトキハ 競賣法第三條、記名證券アルトキハ民事訴訟法第三百八十二條及第三百九十三條ノ規定ニ依ルヘシ

第八十四條 入札又ハ契約保證金ヲ還付スル場合ニ於テハ入札人、買受人又ハ請負人ヲシテ預證書ニ領收ノ旨ヲ記入署名捺印セシメ之ト引換ニ還付ノ手續ヲ爲スヘシ

第八十四條ノ二 入札又ハ契約保證金ヲ還付セサル場合ニ於テ有價證券ヲ以テ保證金ヲ納メタル者カ契約締結期間ノ末日又ハ契約解除ノ翌日ヨリ起算シ七日以内ニ保證金ト同額ノ現金ヲ差出シ有價證券ノ返還ヲ請求シタルトキハ之カ還付ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ期間ニ返還ヲ請求セサルトキハ有價證券ヲ賣却シ其ノ代金ヲ以テ保證金及賣却費用ニ充當シ剩餘アルトキハ之ヲ還付シ不足アルトキハ之ヲ追徵スヘシ

第八十四條ノ三 契約書其ノ他契約ニ關スル書類ニ記載シタル事項ニ變更ヲ要スルトキハ其ノ旨ヲ附箋ニ記載シテ更正スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ契約者雙方契印スヘシ

第二百二十七條 出納官吏有價證券ヲ以テ現金ニ代用セムトスルトキハ有價證券ヲ保管物取扱規程



ニ依リ金庫ニ預入其ノ保管證書ニ有價證券納付證書ヲ添ヘ大林區署長ニ差出スヘシ但シ此ノ場  
合ニ於テ記名證券ナルトキハ明治三十八年<sup>十二</sup>月<sup>十二</sup>當省令第三十六號ノ規定ヲ準用スヘシ  
前項有價證券價格ノ算定ニ付テハ第八十二條ノ規定ヲ準用スヘシ  
第二百二十八條中但書ヲ削除ス  
第二百二十九條及第三百二十二條中「公債證書、勸業債券若ハ興業債券」ヲ「有價證券」ニ改ム  
第四百四十六條中第三號ヲ削除ス  
第四百四十九條 保管物取扱主任ハ左ノ帳簿ヲ設ケ保管物ノ出納ヲ整理スヘシ  
一 保管證書出納簿  
二 有價證券受拂簿  
第五百四十四條ノ二 明治三十八年<sup>十二</sup>月<sup>十二</sup>當省令第二十八號ニ依リ年賦月賦其ノ他延納金ノ擔保トシ  
テ徵收スル有價證券ノ取扱ハ第七十八條第七十九條第八十二條及第八十三條又不動産ノ取扱ハ  
第二百二十五條ノ規定ヲ準用ス